

第6章 廃棄物等の発生と循環利用量の整理

6.1 廃棄物等の発生について

6.1.1 廃棄物等について

廃棄物に係る主な統計資料のうち排出量及び処理量について調査範囲が最も広い資料は、産業廃棄物が「産業廃棄物排出・処理状況調査（環境省）」、一般廃棄物が「一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）」である。

この2つの統計では、把握できない副産物等のデータが存在するため、これらのデータを「廃棄物等」として整理を行った。整理した結果は、図6-1-1、図6-1-2のとおりである。

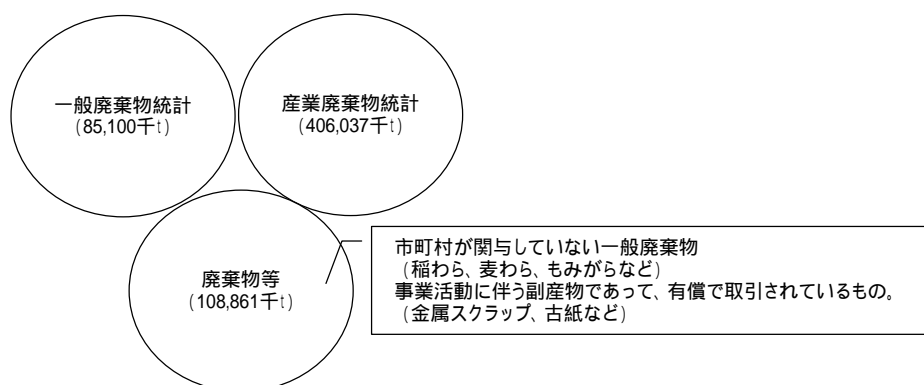


図6-1-1 廃棄物統計データと廃棄物等の関係

廃棄物等の発生		599,999 千t/年			
一般廃棄物(千t/年)		産業廃棄物(千t/年)		「等」(千t/年)	
計	85,100	計	406,037	計	108,861
ごみ小計	55,128	燃え殻	1,892	ガラスびん	3,000
紙	19,041	汚泥	189,181	アルミ缶	29
金属	2,468	廃油	3,248	スチール缶	471
ガラス	2,626	廃酸	2,938	飲料用紙容器	21
ペットボトル	634	廃アルカリ	1,563	古紙	13,750
プラスチック	6,565	廃プラスチック類	5,790	自動車	3,335
厨芥	18,040	紙くず	2,156	稲わら	9,536
繊維	1,411	木くず	5,511	麦わら	903
木竹草類等	2,872	繊維くず	76	もみがら	2,084
陶磁器類等	1,470	動植物性残渣	4,052	(副産物)燃え殻	821
し尿	29,972	ゴムくず	44	(副産物)廃油	573
		金属くず	8,096	(副産物)紙くず	3,721
		ガラスくず及び陶磁器くず	4,797	(副産物)繊維くず	58
		鉱さい	16,448	(副産物)金属くず	4,267
		がれき類	58,829	(副産物)ガラス陶磁器くず	1,573
		動物のふん尿	90,489	(副産物)鉱さい	32,288
		動物の死体	163	(副産物)ばいじん	3,861
		ばいじん	10,765	産業機械等に由来する鉄スクラップ	28,570

注)千トン未満を四捨五入しているため、合計と内訳が一致していない。

図6-1-2 廃棄物統計データと廃棄物等の詳細

6.1.2 循環利用量、自然還元について

廃棄物等の循環利用量の算出においては、原則として廃棄物統計データの再生利用又は資源化量をそのまま循環利用量として取り扱うこととした。

ただし、農業系の家畜ふん尿、稲わら、麦わら、もみ殻については、他の廃棄物と異なり、農業用地へ堆肥等として利用されていることから、農地へ還元された時点で、再び、廃棄物等の発生又は循環的な利用へ向かう可能性が殆どないため、「自然還元量」として整理した。

なお、家畜ふん尿のうち、堆肥舎等の資源化施設を経由し、減量化後のふん尿を農地等へ堆肥として再生利用を行っている場合においては、循環利用とした。

廃棄物統計別に循環利用量と自然還元量の関係は、次のとおりである。

1) 一般廃棄物統計データでみる循環利用量

一般廃棄物データのうち、ごみについては、集団回収量、直接資源化量、処理後の資源化量のすべてを循環利用量とした。

また、し尿浄化槽汚泥についても同様にすべての再生利用量を循環利用量とした。

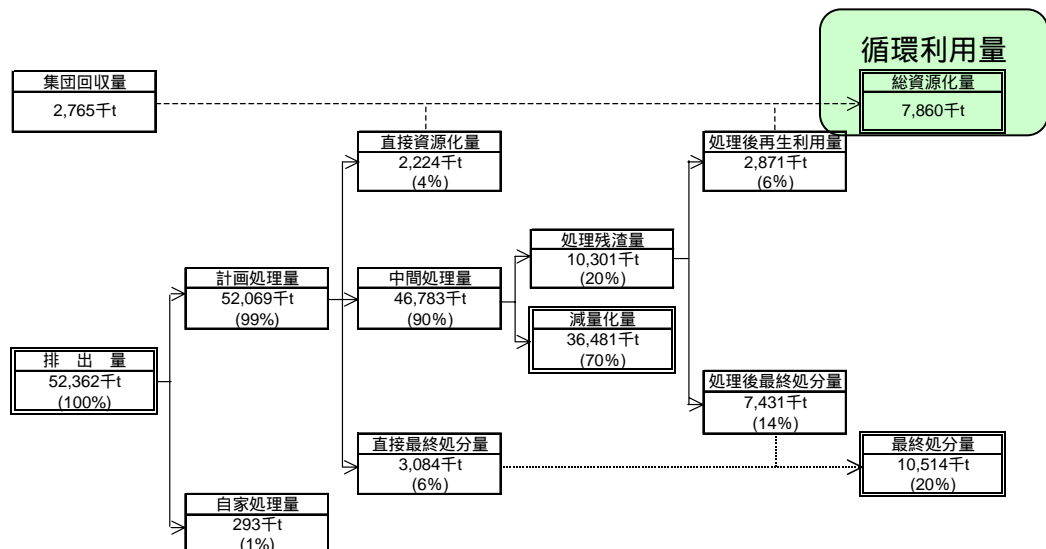


図 6-1-3 一般廃棄物（ごみ）処理フロー（H12）と循環利用量の関係

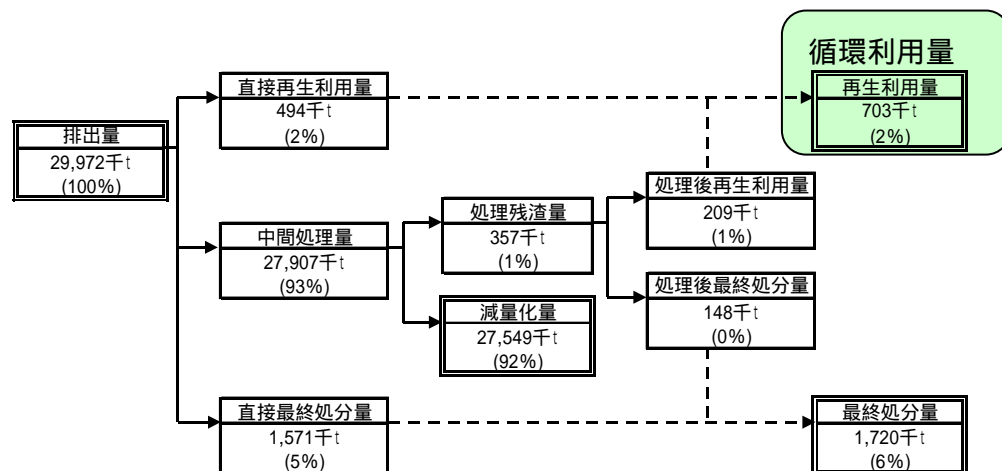


図 6-1-4 一般廃棄物（し尿）処理フロー（H12）と循環利用量の関係

2) 産業廃棄物統計データでみる循環利用量と自然還元量

産業廃棄物については、農業からの「家畜ふん尿以外の産業廃棄物」と「家畜ふん尿」に分けて、循環利用量と自然還元量の算出を行った。

「家畜ふん尿以外の産業廃棄物」については、すべての再生利用量を循環利用量とした。(図 6-1-5)

家畜ふん尿については、排出量の 15%に当たる 13,573 千トンが堆肥舎等で堆肥化されるものとし、この量を循環利用量とした。(図 6-1-6)

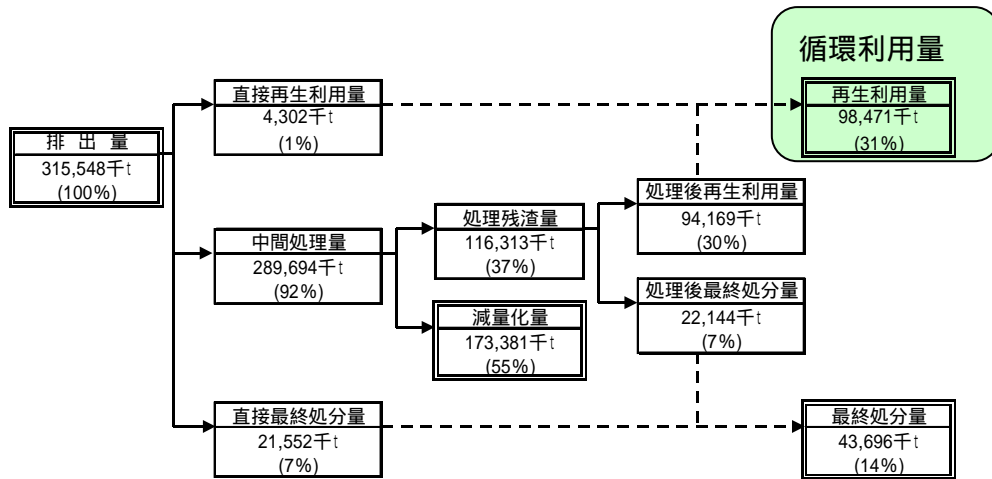


図 6-1-5 産業廃棄物（家畜ふん尿以外）の処理フローと循環利用量の関係

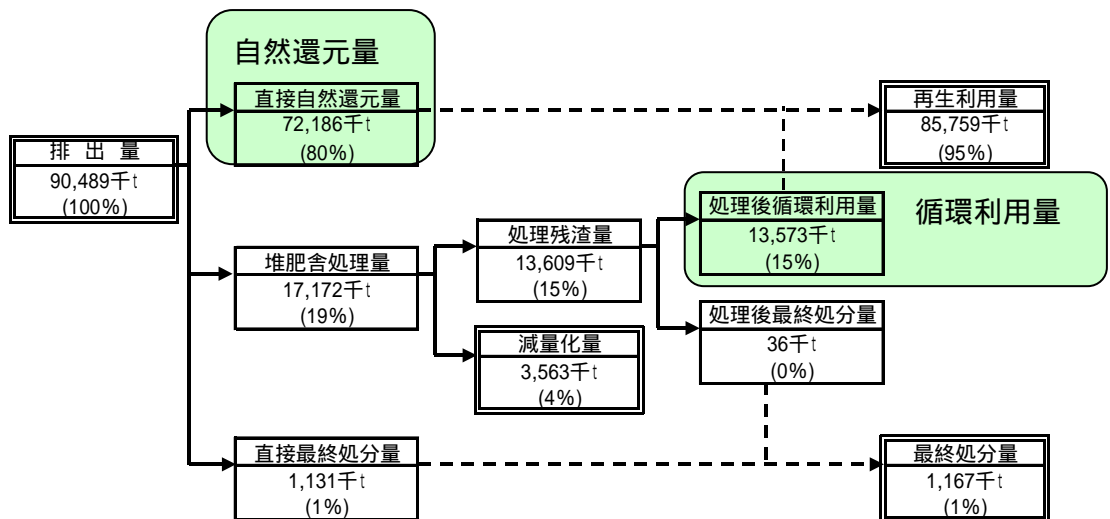


図 6-1-6 家畜ふん尿の処理フローと循環利用量と自然還元量の関係

3)「等」の循環利用量と自然還元量

廃棄物の「等」については、「農業からの稲わら、麦わら、もみがら」と「農業系外廃棄物」に分けて、循環利用量と自然還元量の算出を行った。

農業系外の廃棄物の「等」については、すべてが副産物として再生利用されていることから、全量を循環利用量とした。

農業からの稲わら、麦わら、もみがらは、直接農地へすき込み利用又は畜舎敷料に利用後農地に還元され、また、一部は焼却後農地に還元されていることから、前者の全量と後者の焼却後量をすべて、自然還元量とした。なお、焼却による減量分は、減量化量とした。

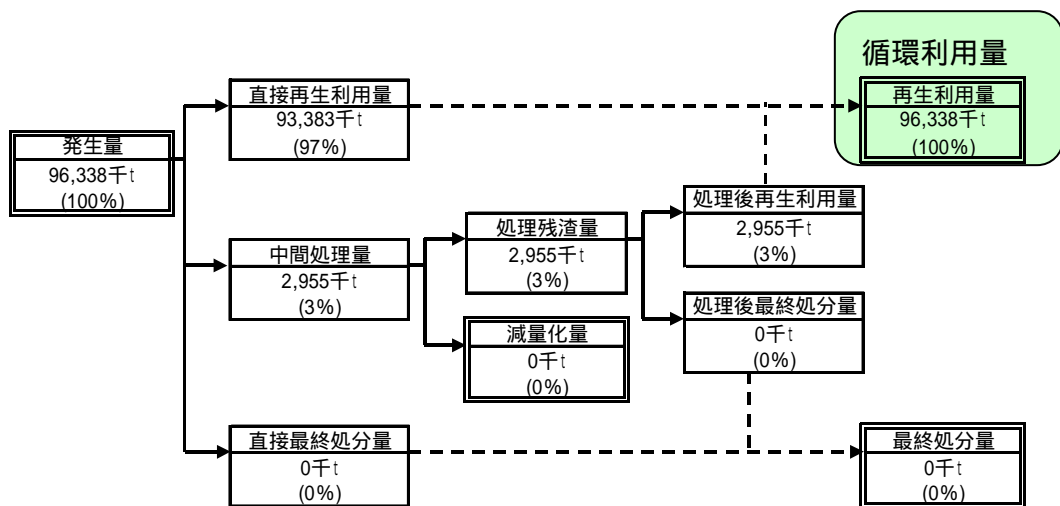


図 6-1-7 農業系外廃棄物「等」の処理フローと循環利用量の関係

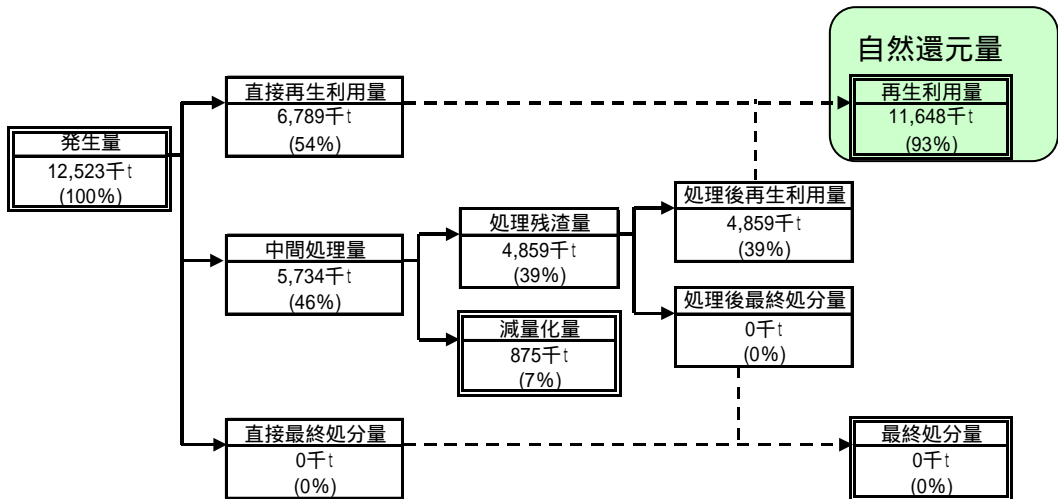


図 6-1-8 農業系廃棄物「等」の処理フローと自然還元量の関係

6.1.3 過去の産業廃棄物統計データの補正について

1) 家畜ふん尿の発生量の補正について

家畜ふん尿の発生量は、家畜の飼養頭羽数に家畜ふん尿発生原単位を乗じて算出されている。この発生原単位の見直しが平成9年度（1997）実績時点で行われたため、平成9年度以前と以降のデータにおいて、大きなバラツキがみられる。このため、平成8年度以前の発生量については、当該年度の飼養飼養頭羽数に、平成9年度以降に用いられている原単位で算出し補正を行った。

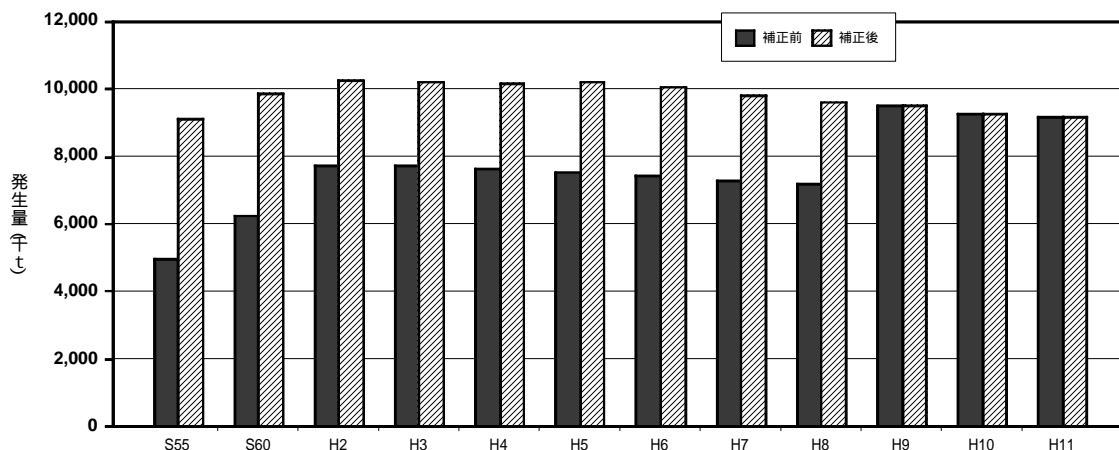


図 6-1-9 家畜ふん尿発生量の補正

2) 廃棄物等の廃油の補正について

廃棄物等（副産物として有償物として再利用される廃油）は、「クリーンジャパンセンター調べによる発生量」 - 「産業廃棄物統計データ排出量（環境省調べ）」 = 「有償物量」で求めた。クリーンジャパンセンター調べによる発生量には各年度で大きなバラツキが見られた。これらは、廃油の定義の違いなどが考えられことから、産業廃棄物となる廃油と副産物となる廃油の関係は一定であると仮定し、環境省値の廃油の各年度の変化率と同様に副産物廃油量の補正を行った。

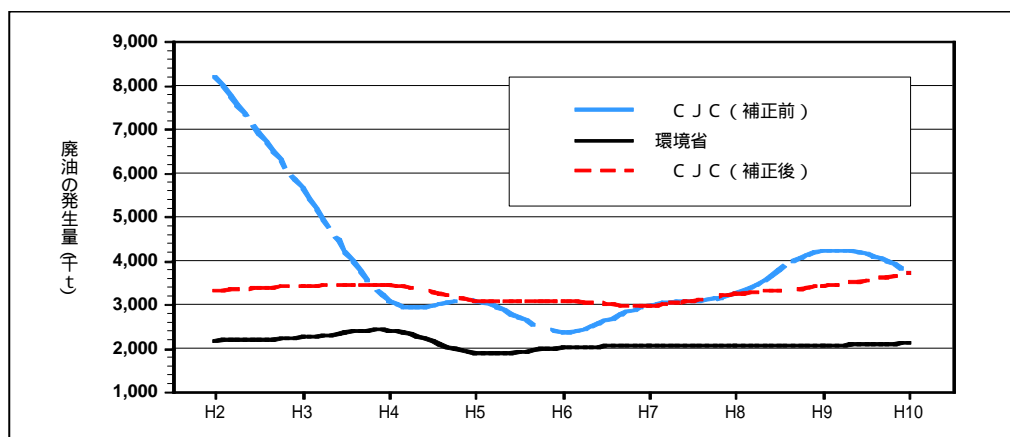


図 6-1-10 廃棄物等の廃油発生量の補正

6.2 過去のダイオキシン減量化目標と廃棄物減量化基本方針について

減量化目標量については、平成 11 年 9 月に設定した「廃棄物の減量化の目標量」(以下、「H 11 目標量」という。)の考え方を踏まえ、以下の考え方により、設定したものである。(下線部は、H11 目標量からの変更事項)

1)一般廃棄物について

(1)排出量

H11 目標量と同様に一般廃棄物の国民一人当たりの排出量を平成 8 年度に比して平成 17 年度は 5 %、平成 22 年度は 10%減量することを目標とした。

厨芥類については、食品リサイクル法対象施設において、平成 18 年度に 20%削減されるとの目標を踏まえて、さらに削減されるものとして算定。

紙類については、その生産・消費量の伸びが経済成長率と関連していることをもとに、今後の経済成長率 2 %という見込みを参考として 1.6%で伸びると仮定して算定。一般廃棄物全体の排出量は、国民一人当たりの排出量に、2005 年及び 2010 年の人口推計値を乗じることを基礎として算定したものの。

(2)再生利用量

容器包装廃棄物の再生利用は、容器包装リサイクル法に基づき促進されることから、その再生利用量については、同法に基づく再商品化等の見込み量をもとに算定したものの。

厨芥類の再生利用量は、将来の飼料、堆肥等への再生利用の見込みをもとに算定したものの。

紙類の再生利用は、紙類のうち再生利用が可能と考えられるものについて、将来の再生利用量の見込みをもとに算定したものの。

その他の廃棄物の再生利用は、従来からの中間処理施設からの金属回収に加えて、焼却灰のスラグ化・再生利用を行うこととし、これらの将来の再生利用量の見込みをもとに算定したものの。

表 6-2-1 一般廃棄物の減量化の目標値

	H9年度		H17年度		H22年度	
	百万t/年	%	百万t/年	%	百万t/年	%
排出量	53		51		49	
再生利用量	5.9	11	10	20	12	24
中間処理による減量	35	66	34	67	31	63
最終処分量	12	23	7.7	15	6.4	13

2)産業廃棄物について

汚泥

下水汚泥については、将来の下水道の普及の見込みから発生量等を予測するなど、主要な業種における将来の排出量、再生利用量に関し、当該業種を所管する省による予測等をもとに、他の業種から排出される廃棄物を含めて推計したもの。

家畜のふん尿

家畜のふん尿の将来の排出量は横ばいと推計し、堆肥としての施用等について予測したもの。

がれき類

過去に建築されたコンクリート建築物の解体の動向などから将来の廃棄物の排出量及び再生利用量等について予測したもの。

鉱さい

将来の排出量を横ばいと推計するとともに、過去の再生利用率及び各種統計データ等を勘案し、予測したもの。

その他

主要な業種における将来の排出量、再生利用に関する当該業種を所管する省による予測等をもとに、他の業種から排出される廃棄物を含めて推計したもの。

なお、産業廃棄物全体について、起点とする年度を平成8年度から平成9年度に変更するとともに、排出量が増加すると推計される廃棄物については、H11目標量に比べて計画期間が1年短いことを踏まえて、所要の修正を行った。

表 6-2-2 産業廃棄物の減量化の目標値

	H9年度		H17年度		H22年度	
	百万 t/年	%	百万 t/年	%	百万 t/年	%
排出量	410		439		458	
再生利用量	168	41	205	47	217	47
中間処理による減量	175	43	197	45	211	46
最終処分量	66	16	36	8	30	7

(注) 小数点以下の数字を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

6.3 廃棄物減量化基本方針目標の進捗状況について

平成13年5月7日に公表された、廃棄物の排出の抑制、再生利用等による廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的に推進するための基本的な方針の基づく、一般廃棄物及び産業廃棄物の減量化の目標量と本調査で整理した結果を比較してみると、次のとおりである。

1) 一般廃棄物の減量化目標の進捗状況

一般廃棄物のここ数年間の推移をみると図6-3-1のとおりであり、排出量はやや増加、再生利用は増加、最終処分量はやや減少となっている。種類別にみると、非金属鉱物系及び金属系は、排出量の減少、最終処分量の減少とまっている。バイオマス系や化石系の排出量は増加となっている。

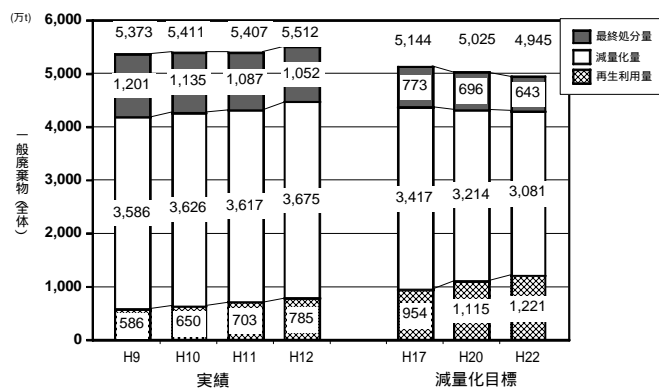


図6-3-1 一般廃棄物の減量化目標の進捗状況

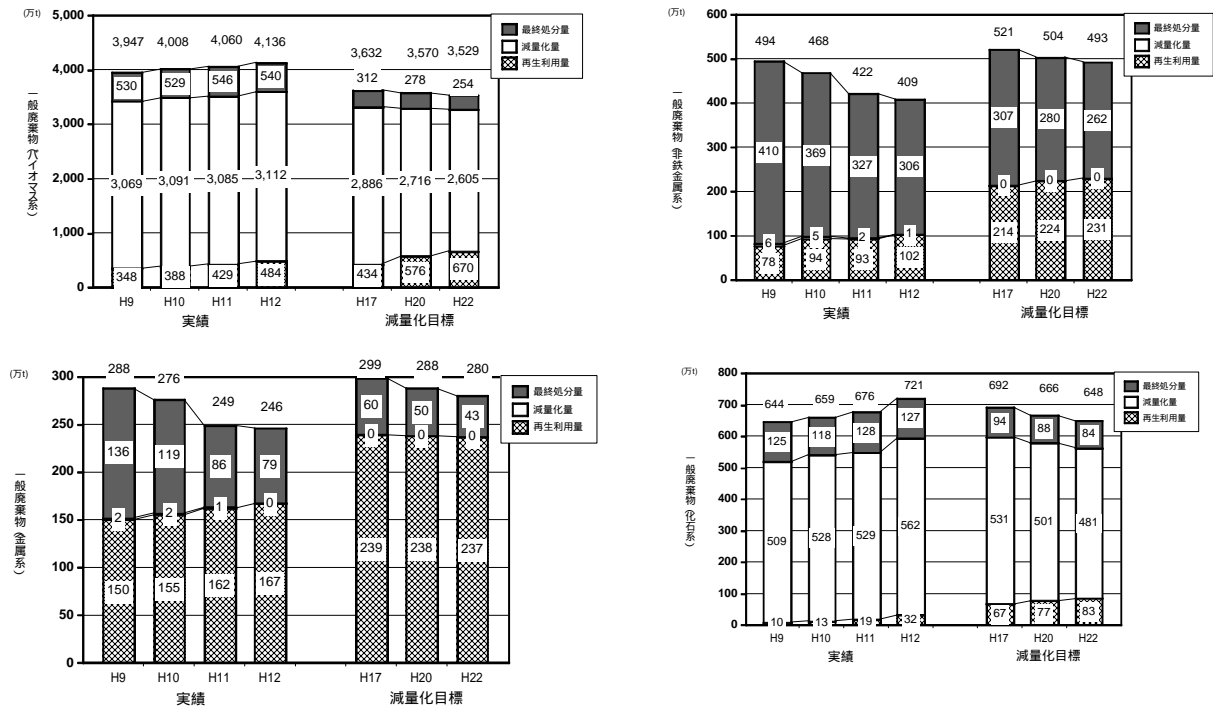


図6-3-2 一般廃棄物の種類別の減量化目標の進捗状況

2) 産業廃棄物の減量化目標の進捗状況

産業廃棄物のここ数年間の推移をみると図 6-3-3 のとおりであり、排出量及び最終処分量は減少、再生利用量は増加となっている。平成 12 年度と実績量は平成 17 年度の減量化目標と比較して、目標を達成している状況にある。種類別にみると図 6-3-4 のとおりである。

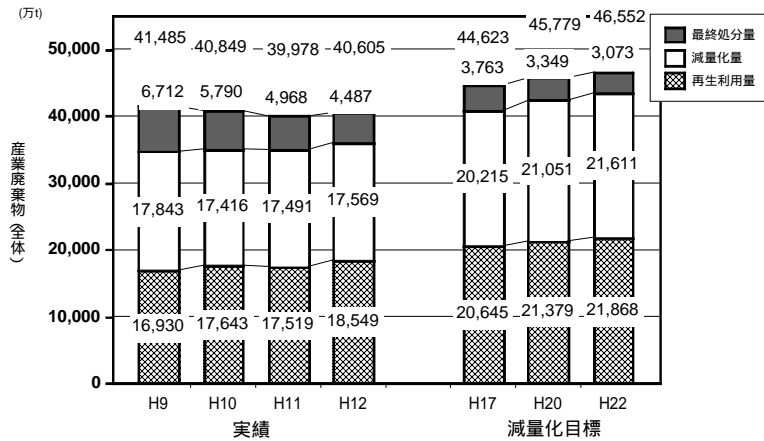


図 6-3-3 産業廃棄物の減量化目標の進捗状況

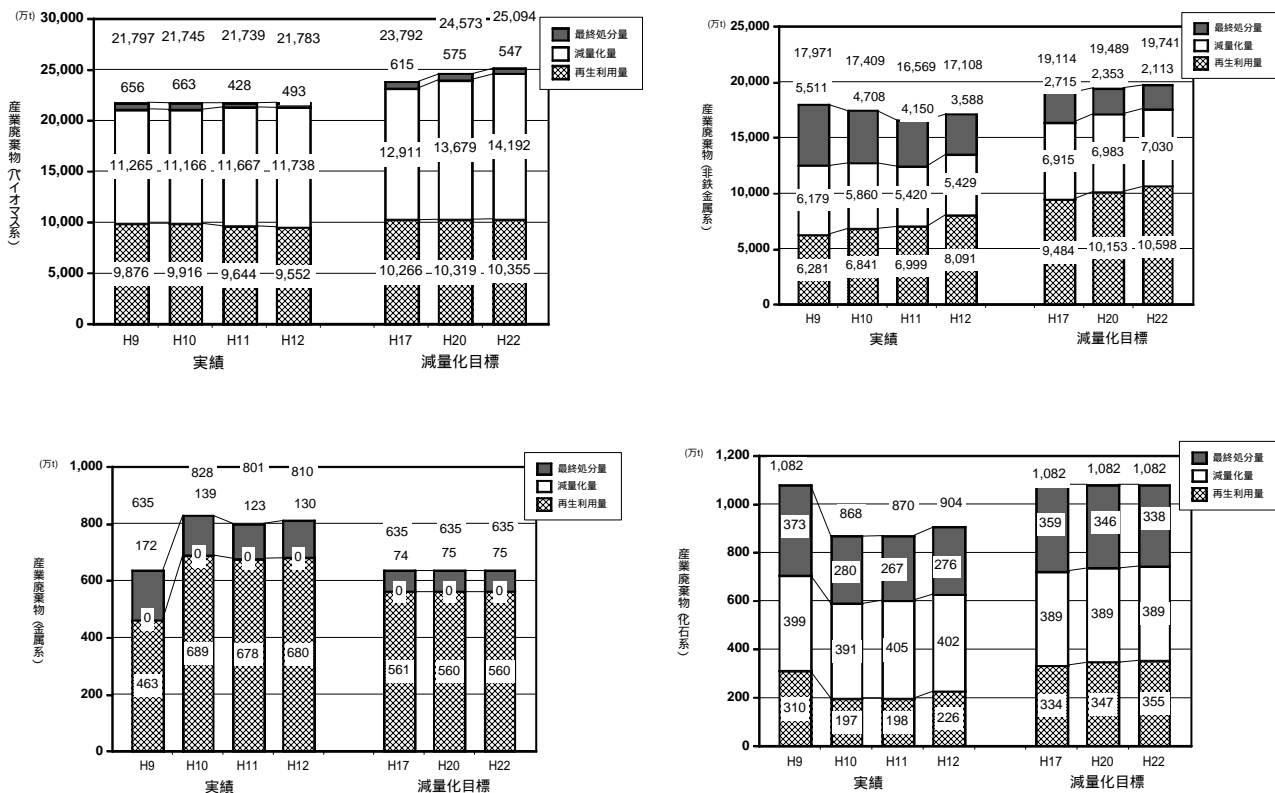


図 6-3-4 産業廃棄物の種類別の減量化目標の進捗状況

6.4 循環計画の設計について

6.4.1 一般廃棄物に関する基本的な設定事項及び条件等について

6.4.1.1 一般廃棄物発生の将来推計について

平成 22 年度の一般廃棄物発生の推計フローシートは図 6-4-1 に示すとおりである。

平成 12 年度を基準年とし計画を策定するために、平成 12 年度のごみ量を下表のとおり区分し、種類別量を推計する。

表 6-4-1 一般廃棄物の種類別の推計区分

排出源	区分	種類	分別	備考
生活系ごみ	一般ごみ	容器包装	資源ごみ / 資源ごみ以外区分	
		厨芥類		容器包装を除く
		紙類		
		その他		
	粗大ごみ		すべて外	
事業系ごみ	一般ごみ	容器包装	すべて外	
		厨芥類		容器包装を除く
		紙類		
		その他		
	粗大ごみ			

なお、一般廃棄物の排出量等の将来推計で用いた人口推計は、国立社会保障・人口問題研究所で試算された「日本の将来推計人口（平成 14 年 1 月推計）」の中位推計を用いた。

表 6-4-2 「日本の将来推計人口（平成 14 年 1 月推計）」の中位推計

平成	12	17	18	19	20	21	22	23	24	25
西暦	2000	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
人口(千人)	126,926	127,708	127,741	127,733	127,686	127,599	127,473	127,309	127,107	126,865

出典：国立社会保障・人口問題研

平成 12 年度のごみの内訳を推計
 (生活系ごみ、生活系粗大ごみ、事業系ごみ、事業系粗大ごみ、自家処理)

平成 12 年度排出区分ごと種別内訳推計 (容器包装、厨芥類、紙類、その他)
 生活系ごみ：生活系ごみ量 × 組成割合
 事業系ごみ：総量 (第 4 章、循環的利用量) - 生活系ごみ量
 生活系粗大ごみ：生活系粗大ごみ量 × 組成割合
 事業系粗大ごみ：事業系粗大ごみ量 × 組成割合 (生活系と同率)

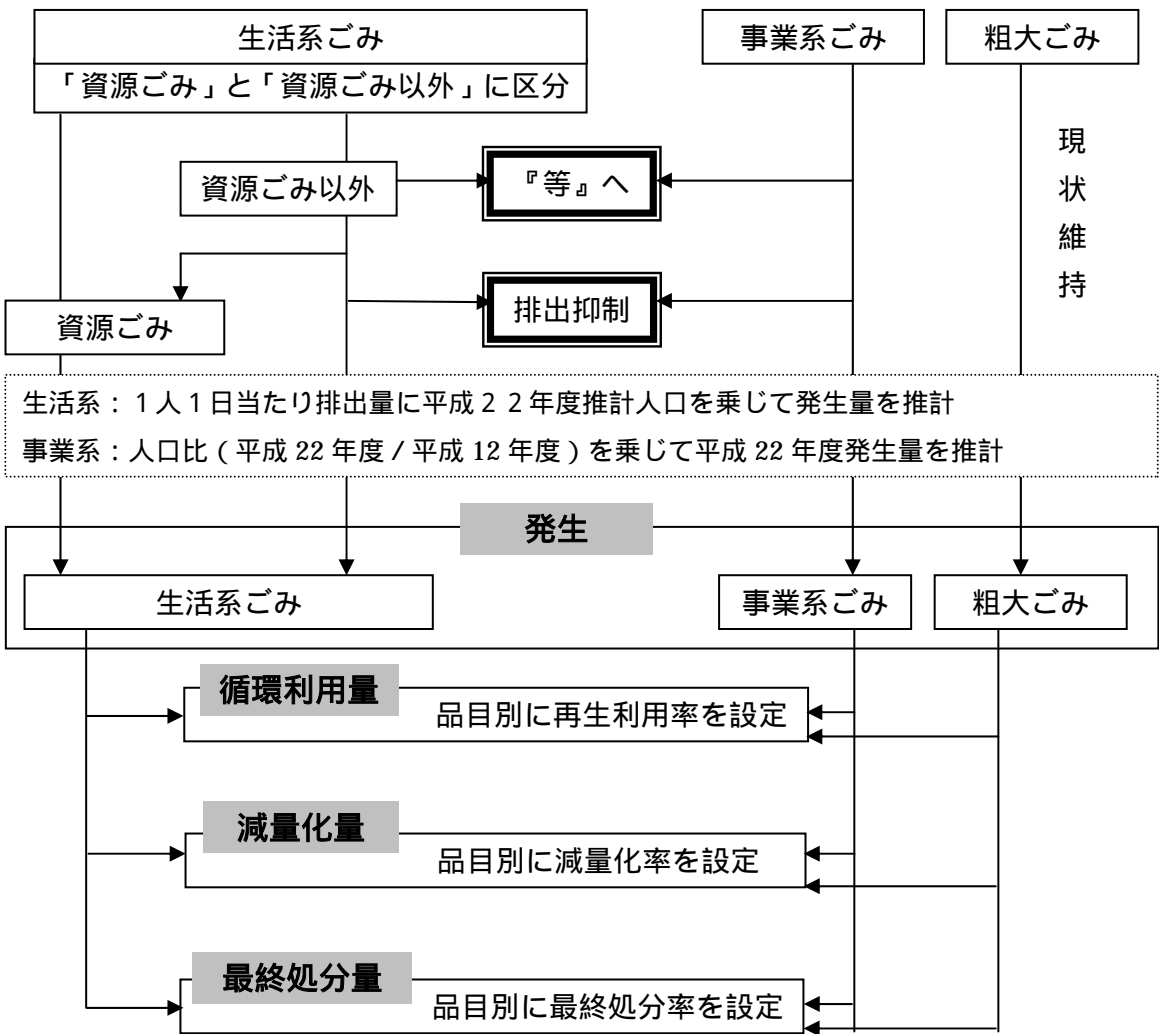


図 6-4-1 平成 22 年度の一般廃棄物発生量等の推計フローシート

6.4.1.2 一般廃棄物の組成について

1)生活系ごみについて

(1)生活系ごみ総量

一般廃棄物処理事業実態調査では、排出源（生活系、事業系）別の排出量、収集区分別排出量（可燃ごみ、資源ごみ、粗大ごみ、直接搬入ごみ等）および収集主体別の排出量（直営、委託、許可）が調査されている。しかし、収集区分別の排出源は調査されていないため次の方法で生活系ごみの内訳を推計した。

排出源	収集区分	収集主体		
		直営/委託 収集	許可業 者収集	直接搬 入
生活系ごみ A	一般ごみ	X 1	X 2	
事業系ごみ B	粗大ごみ	Y 1	Y 2	
	直接搬入ごみ			Z
合 計 C		合 計 C		

直接搬入ごみには引っ越し時等において、一時多量ごみとして生活系ごみが直接搬入されることはあるが、大半が事業系ごみと考え全量を事業系ごみとする。(Z)
 収集主体別の排出量は許可業者収集量は全量事業系ごみとする。(X 2 + Y 2)
 排出源別排出量のうち事業系ごみと および の差分が直営あるいは委託収集ごみとして収集されていることとなるため、その差分を直接搬入量を除く搬入割合で案分し、一般ごみ、粗大ごみからそれぞれ差し引いて、生活系ごみ総量とする。

$$\text{生活系一般ごみ} : X 1 - (B - (Z + X 2 + Y 2)) \times X 1 / (X 1 + Y 1)$$

$$\text{生活系粗大ごみ} : Y 1 - (B - (Z + X 2 + Y 2)) \times Y 1 / (X 1 + Y 1)$$

以上の結果は以下のとおりである。

一般ごみ	32,803 千 t/年	709 g/人/日
粗大ごみ	1,2776 千 t/年	28 g/人/日
自家処理	293 千 t/年	6 g/人/日
合 計	334,372 千 t/年	743 g/人/日

(2)生活系ごみの種類別内訳

生活系一般ごみの内訳は、第4章循環的利用量の推計で用いた容器包装排出実態調査等のごみ組成調査結果（平成10～12年度平均値）の比率を用いて、容器包装（紙、木、プラスチック、ペットボトル、金属、ガラス）、厨芥類、紙（容器包装を除く）、その他（容器包装を除く木/草、プラスチック、金属、ガラス、繊維、陶磁器/土石）を算出した。

$$\text{一般ごみの種類別排出量[g/人/日]} = 709[\text{g/人/日}] \times \text{各組成割合}[\%]$$

生活系粗大ごみは同様に第4章循環的利用量の推計で用いた組成割合で木/草、プラスチック、金属、ガラス、繊維、陶磁器/土石を算出した。

$$\text{粗大ごみの種類別排出量[g/人/日]} = 28[\text{g/人/日}] \times \text{各組成割合}[\%]$$

(3)分別区分（資源ごみ/資源ごみ以外）

品目別の分別区分は全国的な統計がない。そこで、現時点で得られる直近の容器包装排出実態調査ごみ組成調査結果（平成13年度）を用いて、各品目毎に資源ごみ及び資源ごみ以外の分別割合を算出した。

$$\begin{aligned} &\text{一般ごみの種類別資源ごみ量[g/人/日]} \\ &= \text{一般ごみの種類別排出量[g/人/日]} \times \text{各種別資源ごみ割合}[\%] \end{aligned}$$

2)事業系ごみ

(1)事業系一般ごみの種類別内訳

事業系一般ごみの種類別内訳は全ごみ量と生活系ごみの差分として算出した。

全ごみ量の種類別内訳は第4章循環的利用量の推計した紙、金属、ガラス、ペットボトル、プラスチック、厨芥、繊維、木/草、陶磁器/土石のうち、

ペットボトルは全量を容器包装

厨芥、繊維、陶磁器/土石は全量を容器包装以外

紙、金属、ガラス、プラスチック、木/草のうち容器包装は、生活系一般ごみ量に生活系一般ごみ中の容器包装割合を乗じて算出

紙、金属、ガラス、プラスチック、木/草のうち容器包装以外は、各総量と容器包装量との差分とした。

$$\begin{aligned} &\text{一般ごみ量の種類別排出量[万t/年]} \\ &= \text{種類別ごみ量[万t/年]} - \text{種類別生活系一般ごみ量[万t/年]} \end{aligned}$$

(2)事業系粗大ごみの種類別内訳

事業系粗大ごみの種類別内訳は生活系粗大ごみと同様に第4章循環的利用量の推計で用いた組成割合で木/草、プラスチック、金属、ガラス、繊維、陶磁器/土石を算出した。

$$\begin{aligned} & \text{粗大ごみの種類別排出量[万 t/年]} \\ & = \text{粗大ごみ排出量[万 t/年]} \times \text{各組成割合[\%]} \end{aligned}$$

6.4.1.3 平成 22 年度の一般廃棄物の発生量について

1)生活系一般ごみ

生活系一般ごみは、排出抑制、分別収集の徹底等がなされた後の一人一日あたりの排出量（以下「排出原単位」）に、平成 22 年度における推計人口を乗じた量とする。

(1)容器包装

(ア)紙

資源ごみとして分別収集されていないごみ（以下「未分別ごみ」）のうち、

マイバックの利用促進で販売店の紙袋・包装紙が 50%

削減され、さらに

飲料用紙製容器の 20%が店頭回収、

ダンボールの 30%が集団回収・ちり紙交換等により回収

され、古紙回収業者等を活用して循環利用されるものとする。

また、分別収集が徹底され、資源ごみとして分別収集される分別ごみ（以下「分別ごみ」）量は増加し、平成 19 年度の分別収集見込み量と同量が分別収集されると見込む。

(イ)木

排出原単位は現状を維持するものとする。

(ウ)ペットボトル

未分別ごみのうち、

飲料用・しょう油用ペットボトルの 20%が店頭回収

され、再生利用事業者等を活用して循環利用されるものとする。

また、分別収集が徹底され、分別ごみ量は増加し、平成 19 年度の分別収集見込み量と同量が分別収集されると見込む。

(エ)プラスチック

未分別ごみのうち、

トレイは量り売り商品の販売割合の増加等により 20%

マイバックの利用促進で販売店のプラスチック袋が 50%

詰め替え商品の利用によりボトル類が 10%

削減され、さらに、

発泡スチロールトレイは 20%が店頭回収

され、再生利用事業者等を活用して循環利用されるものとする。

なお、詰め替え商品の利用増加により商品の袋の 20%が増加するものとする。

また、分別収集が徹底され、分別ごみ量は増加し、平成 19 年度の分別収集見込み量と同量が分別収集されると見込む。

(オ)金属

未分別ごみのうち、

飲料用容器の 50%が集団回収等により回収

され、再生利用事業者等を活用して循環利用されるものとする。

また、分別収集が徹底され、分別ごみ量は増加し、平成19年度の分別収集見込み量と同量が分別収集されると見込む。

(カ) ガラス

未分別ごみのうち、

飲料用びんの20%がリターナブルびん使用に転換され、

リターナブルびんは100%回収

され、飲料メーカー等で再使用されるものとする。

また、分別収集が徹底され、分別ごみ量は増加し、平成19年度の分別収集見込み量と同量が分別収集されると見込む。排出原単位は現状を維持するものとする。

(2) 厨芥類

賞味期限切れ食品を削減する等により10%削減されると見込む。

(3) 紙類

未分別ごみのうち、新聞紙、書籍・雑誌、広告チラシ等の30%が集団回収・ちり紙交換等により回収され、古紙回収業者等を活用して循環利用されるものとする。

(4) その他（繊維類）

未分別ごみのうち、繊維類の10%が集団回収・ちり紙交換等により回収され、再生資源業者等を活用して循環利用されるものとする。

(5) その他（木・草、プラスチック、金属、ガラス、陶磁器・土石）

排出原単位は現状を維持するものとする。

2) 生活系粗大ごみ

排出原単位は現状を維持するものとする。

3) 事業系一般ごみ

(1) 容器包装（ペットボトル）

生活系ごみと同様の割合で回収され、再生利用事業者等を活用して循環利用されるものとする。

(2) 厨芥類

仕入れ・販売方法の改善による売れ残りの削減、調理くずの削減等により20%、削減されると見込む。

(3) 紙類

生活系ごみと同様の割合で回収され、再生利用事業者等を活用して循環利用されるものとする。

(4)その他（繊維類、木・草、プラスチック、金属、ガラス、陶磁器・土石）

生活系ごみと同様の割合で回収され、再生利用事業者等を活用して循環利用されるものとする。

4)事業系粗大ごみ

生活系ごみと同様の割合で回収され、再生利用事業者等を活用して循環利用されるものとする。

5)自家処理ごみ

自家処理ごみの排出原単位は現状を維持するものとし、平成 22 年度における推計人口を乗じた量とする。

6)集団回収

集団回収量の排出原単位は現状を維持するものとし、平成 22 年度における推計人口を乗じた量とする。

6.4.1.4 平成 22 年度の一般廃棄物の循環利用量について

1)生活系一般ごみ

(1)容器包装

分別ごみのうち 95%再商品化業者等により循環利用されるものとする。

(2)厨芥類

10%が循環利用されると見込む。

(3)紙類

一般廃棄物減量化目標値である 33%が循環利用されると見込む。

(4)その他(木・草、プラスチック、金属、ガラス、繊維、陶磁器・土石)

木・草類は厨芥類と同様に 10%が循環利用されると見込む。

金属類は容器包装の金属類と同様に 80%が循環利用されると見込む。

その他は現状と同率で循環利用されると見込む。

2)生活系粗大ごみ

金属類は一般ごみと同率の 80%が循環利用されると見込み、金属類を含めて粗大ごみ全体で約 30%が循環利用されると見込む。

3)事業系一般ごみ

(1)容器包装

生活系ごみと同様の排出量比で循環利用されると見込む。

(2)厨芥類

生活系ごみと同率で循環利用されると見込む。

(3)紙類

生活系ごみと同率で循環利用されると見込む。

(4)その他(繊維類、木・草、プラスチック、金属、ガラス、陶磁器・土石)

生活系ごみと同率で循環利用されると見込む。

(2)事業系粗大ごみ

生活系ごみと同率で循環利用されると見込む。

6.4.1.5 平成 22 年度の一般廃棄物の減量化量について

1)生活系一般ごみ

(1)容器包装

金属、ガラスの焼却等による減量化率は 0%、その他については 1996 年～2000 年の金属、ガラス、陶磁器等の不燃物を除く区減量処理率が平均で 88.9%であることから、一律 90%と見込む。

(2)厨芥類

同様に 90%と見込む。

(3)紙類

同様に 90%と見込む。

(4)その他（木・草、プラスチック、金属、ガラス、繊維、陶磁器・土石）

金属、ガラス：陶磁器・土石の焼却等による減量化率は 0%、その他については同様に 90%と見込む。

2)生活系粗大ごみ

一般ごみと同様に金属、ガラスの焼却等による減量化率は 0%、その他については同様に 90%と見込む。

3)事業系一般ごみ

(1)容器包装

生活系ごみと同様に見込む。

(2)厨芥類

生活系ごみと同様に見込む。

(3)紙類

生活系ごみと同様に見込む。

(4)その他（繊維類、木・草、プラスチック、金属、ガラス、陶磁器・土石）

生活系ごみと同様に見込む。

4)生活系粗大ごみ

生活系ごみと同様に見込む。

6.4.1.6 平成 22 年度の一般廃棄物の最終処分量について

1)生活系一般ごみ

(1)容器包装

金属、ガラスの焼却等による中間処理後の最終処分率は 100%、その他については一律 10%と見込む。

(2)厨芥類

同様に 10%と見込む。

(3)紙類

同様に 10%と見込む。

(4)その他(木・草、プラスチック、金属、ガラス、繊維、陶磁器・土石)

金属、ガラスの焼却等による中間処理後の最終処分率は 100%、その他については同様に 10%と見込む。

2)生活系粗大ごみ

金属、ガラスの焼却等による中間処理後の最終処分率は 100%、その他については同様に 10%と見込む。

3)事業系一般ごみ

(1)容器包装

生活系ごみと同様に見込む。

(2)厨芥類

生活系ごみと同様に見込む。

(3)紙類

生活系ごみと同様に見込む。

(4)その他(繊維類、木・草、プラスチック、金属、ガラス、陶磁器・土石)

生活系ごみと同様に見込む。

4)事業系粗大ごみ

生活系ごみと同様に見込む。

6.4.1.7 平成 22 年度の一般廃棄物の「等」の考え方について

生活系一般ごみのうち、未分別の

飲料用紙製容器の 20%が店頭回収、

ダンボールの 30%が集団回収・ちり紙交換等により回収

飲料用・しょう油用ペットボトルの 20%が店頭回収

発泡スチロールトレイの 20%が店頭回収

飲料用金属製容器の 50%が店頭回収等により回収

新聞紙、書籍・雑誌、広告チラシ等の 30%が集団回収・ちり紙交換等により回収

繊維類の 10%が集団回収・ちり紙交換等により回収

され、再生資源業者等を活用して循環利用されるものとする。

また、事業系一般ごみについても、同率で回収され、再生資源業者等を活用して循環利用されるものとする。

6.4.1.8 平成 22 年度の一般廃棄物の発生量及び循環利用量のシナリオ

1) 容器包装

(万トン/年)

	発生量	循環利用量	減量化量	最終処分量
平成 12 年度	830	205	438	188
平成 22 年度	762	393	290	80
考え方	平成 12 年度の発生量から、古紙回収業者等の活用、店頭回収等の促進で排出抑制される。 人口の増加分は増量	生活系ごみは平成 19 年度の分別収集見込み量と同量が分別収集され、95%が循環利用される。 事業系ごみは生活系ごみと同様の排出量比で循環利用される。	可燃性廃棄物の 90%が焼却等により減量化される。	可燃性廃棄物の 10%が焼却残渣等として、不燃性廃棄物の 100%が不燃残渣として最終処分される。

(排出抑制の内訳)

資源ごみとして分別収集されていないごみのうち、

段ボールの 30%が削減(古紙回収業者等を活用して循環利用)

紙製飲料容器の 20%が削減(店頭回収を促進して循環利用)

マイバックの利用促進等で紙袋、包装紙の 50%が削減

ペットボトルの 20%が削減(店頭回収を促進して循環利用)

トレイ類の 40%が削減(量り売り等で 20%削減、店頭回収を促進して 20%の循環利用)

スチール缶、アルミ缶の 50%が削減(集団回収等を活用して循環利用)

リターナブルびんの回収で 20%が削減

されるものとする。

2) 厨芥類

(万トン/年)

	発生量	循環利用量	減量化量	最終処分量
平成 12 年度	1,793	13	1,534	246
平成 22 年度	1,558	156	1,262	140
考え方	生活系ごみの10%、事業系の20%が削減される。人口の増加分は増量	10%が再生利用される。	90%が焼却等により減量化される。	10%が焼却残渣等として最終処分される。

3) 紙類 (容器包装を除く)

(万トン/年)

	発生量	循環利用量	減量化量	最終処分量
平成 12 年度	1,417	153	1,071	193
平成 22 年度	1,259	415	759	84
考え方	平成 12 年度の発生量から、古紙回収業者等の活用で排出抑制される。	資源ごみとして分別収集されたうち 33% (一般廃棄物減量化目標値) が循環利用される。	90%が焼却等により減量化される。	10%が焼却残渣等として最終処分される。

(排出抑制の内訳)

資源ごみとして分別収集されていないごみのうち、

新聞紙、書籍・雑誌、広告チラシ等の 30%が削減 (古紙回収業者等を活用して循環利用)

さらに、残りの 50%が資源ごみとして分別収集される

4)その他（木／草、容器包装以外のプラスチック・金属・ガラス、繊維、陶磁器／土石）

（万トン／年）

	発生量	循環利用量	減量化量	最終処分量
平成 12 年度	1,167	138	604	425
平成 22 年度	1,162	191	647	334
考え方	平成 12 年度の発生量から、古紙回収業者等の活用で排出抑制される。	一部を除いて、原則として現状維持	可燃性廃棄物の 90%が焼却等により減量化される。	可燃性廃棄物の 10%が焼却残渣等として、不燃性廃棄物の 100%が不燃残渣として最終処分される。

（排出抑制の内訳）

資源ごみとして分別収集されていないごみのうち、

繊維類の 10%が削減（古紙回収業者等を活用して循環利用）

されるものとする。

（循環利用量の内訳）

粗大ごみを除くごみは、原則として平成 12 年度と同率で循環利用されることとし、

プラスチック類の 2%が循環利用

ガラス類の 12%が循環利用

繊維類の 9%が循環利用

陶磁器・土石類の 3%が循環利用

されるものとする。

ただし、金属類については現状の 65%が 80%に促進されるものとする。

粗大ごみは、

金属類の 80%が循環利用

その他の 10%が循環利用

されるものとする。

6.4.2 産業廃棄物に関する基本的な設定事項及び条件等について

6.4.2.1 産業廃棄物発生量等の将来推計について

産業廃棄物の発生量及び循環利用量等の平成 22 年度の推計は、現状における産業廃棄物の実績値と平成 11 年 9 月に設定された「廃棄物の減量化の目標量」との関係性を考慮し予測を行った。

基本予測として、廃棄物の減量化の目標値である平成 9 年度に対する平成 22 年度の目標値の増減率を、平成 12 年度実績値に対して平成 25 年に当てはめ、平成 22 年度の予測を行った。

更に、各業界等の計画値を踏まえ、循環計画設定目標値の設定を行った。

(1) 廃棄物の減量化の目標の基づく、平成 9 年度基準に基づく平成 22 年度目標値の算出

6.2 に記した「廃棄物減量化基本方針」に基づき、平成 9 年度に対する平成 22 年度の目標値の増減率を種類別（一部、業種別種類別）算出した。この増減率より、平成 9 年度実績値の排出量、減量化量、再生利用量、最終処分量の乗じて、廃棄物減量化基本方針に基づく平成 22 年度の目標値を再現した。（以下、「減量化目標」という。）

(2) 廃棄物の減量化の目標の基づく、平成 12 年度基準に基づく平成 22 年度目標値の算出

(1)で算出した増減率を、平成 12 年度実績値の排出量、減量化量、再生利用量、最終処分量の乗じて、平成 25 年度値を算出。

平成 12 年度から平成 25 年度の直線補間により、平成 22 年度目標値を算出。

（以下、「基本予測」という。）

(3) 循環計画目標値の算出

(1)の減量化目標と(2)の基本予測を踏まえて、更に、各業界等の計画値を踏まえ、循環計画設定目標値の設定を行った。（以下、「循環計画設定」という。）

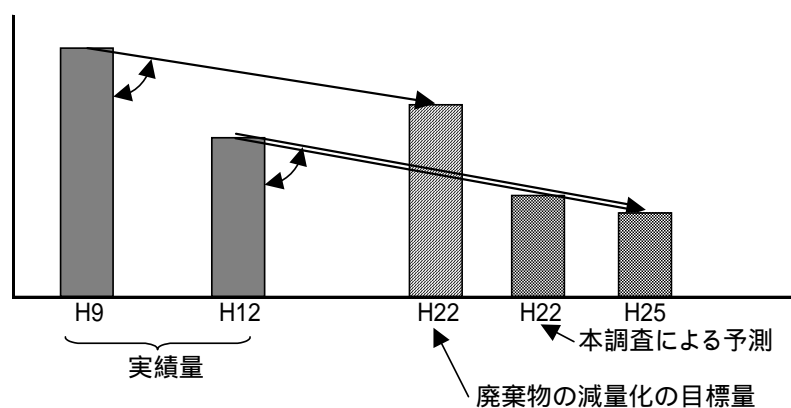


図 6-4-2 産業廃棄物の平成 22 年度予測の概念図

6.4.2.2 産業廃棄物の循環計画設定結果の概略

産業廃棄物の発生及び循環利用量、減量化量、最終処分量等の循環計画設定結果は、図 6-4-3 のとおりである。

なお、産業廃棄物のうち、家畜ふん尿については、一部、自然還元量（詳細は、本章 6.1.2 参照）として算出した。

[産業廃棄物全体の結果]

(単位:万t)		排出量		再生利用量				減量化量				最終処分量	
				循環利用量		自然還元量		対H9		対H12			
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12
実績	平成9年度	41,485 (100%)	1.00	16,930 (41%)	1.00	9,364 (55%)	1.00	7,566 (81%)	1.00	17,846 (43%)	1.00	6,712 (16%)	1.00
	平成12年度	40,605 (100%)	0.98	18,529 (46%)	1.09	11,310 (61%)	1.21	7,219 (64%)	0.95	17,569 (43%)	0.98	4,487 (11%)	0.67
減量化目標	平成22年度	46,552 (100%)	1.12	21,868 (47%)	1.29	14,850 (68%)	1.59	7,018 (47%)	0.93	21,611 (46%)	1.21	3,073 (7%)	0.46
基本予測	平成22年度	44,737 (100%)	1.08	21,467 (48%)	1.27	14,691 (68%)	1.57	6,776 (46%)	0.90	20,413 (46%)	1.14	2,846 (6%)	0.42
循環計画設定	平成22年度	44,064 (100%)	1.06	22,201 (50%)	1.31	15,414 (69%)	1.65	6,787 (44%)	0.90	19,783 (45%)	1.11	2,081 (5%)	0.31

[産業廃棄物（還元量を除く）]

(単位:万t)		発生		循環利用量		減量化量		最終処分量	
				対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12
実績	平成9年度	33,919 (100%)	1.00	9,364 (28%)	1.00	17,846 (53%)	1.00	6,712 (20%)	1.00
	平成12年度	33,386 (100%)	0.98	11,310 (34%)	1.21	17,569 (53%)	0.98	4,487 (13%)	0.67
減量化目標	平成22年度	39,534 (100%)	1.17	14,850 (38%)	1.59	21,611 (55%)	1.21	3,073 (8%)	0.46
基本予測	平成22年度	37,950 (100%)	1.12	14,691 (39%)	1.57	20,413 (54%)	1.14	2,846 (8%)	0.42
循環計画設定	平成22年度	37,277 (100%)	1.10	15,414 (41%)	1.65	19,783 (53%)	1.11	2,081 (6%)	0.31

[産業廃棄物から「等」へ移動したもの（還元量）]

(単位:万t)		発生		自然還元量		減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12
実績	平成9年度	7,566 (100%)	1.00	7,566 (100%)	1.00				
	平成12年度	7,219 (100%)	0.95	7,219 (100%)	0.95				
減量化目標	平成22年度	7,018 (100%)	0.93	7,018 (100%)	0.93				
基本予測	平成22年度	6,787 (100%)	0.90	6,776 (100%)	0.90				
循環計画設定	平成22年度	6,787 (100%)	0.90	6,787 (100%)	0.90				

図 6-4-3 産業廃棄物の循環計画設定結果の概略

6.4.2.3 産業廃棄物発生量等の種類別の将来推計について

1) 燃え殻（非金属鉱物系）

燃え殻は、セメント原料、路盤材等として再生利用を拡大することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

なお、発生は、現状維持とした。

表 6-4-3 燃え殻（非金属鉱物系）

(単位:万t) [燃え殻]		発生		循環利用量			減量化量			最終処分量		
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	241 (100%)	1.00	85 (35%)	1.00	36 (15%)	1.00	120 (50%)	1.00			
	平成12年度	189 (100%)	0.78	63 (33%)	0.74	41 (22%)	1.14	85 (45%)	0.71	1.00		
減量化目標	平成22年度	241 (100%)	1.00	96 (40%)	1.13	51 (21%)	1.42	94 (39%)	0.78	1.11		
基本予測	平成22年度	189 (100%)	0.78	75 (40%)	0.89	40 (21%)	1.11	74 (39%)	0.61	0.87		
循環計画設定	平成22年度	189 (100%)	0.78	143 (76%)	1.68	28 (15%)	0.78	18 (10%)	0.15	0.21		
考え方		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		石炭火力発電所からの石炭灰の循環利用率を平成22年までに83.3%に引き上げる。 その他の燃え殻の循環利用率を平成22年度までに68.1%に引き上げる。						石炭火力発電所からの石炭灰の最終処分量を平成22年までに3.9%に引き下げる。 その他の燃え殻の最終処分量を平成22年度までに5%に引き下げる。		

2) 汚泥

汚泥は、発生業種及び性状が多種多様であることから、廃棄物の性状等から7つに分けて、設定を行った。個別の種類ごとの結果は、表 6-4-5～表 6-4-11 のとおりであり、各種類を集計した汚泥全体の結果は、表 6-4-4 のとおりである。

表 6-4-4 汚泥（全体）

(単位:万t) [汚泥]		発生		循環利用量			減量化量			最終処分量		
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	19,617 (100%)	1.00	1,030 (5%)	1.00	16,037 (82%)	1.00	2,552 (13%)	1.00			
	平成12年度	18,918 (100%)	0.96	1,401 (7%)	1.36	15,738 (83%)	0.98	1,759 (9%)	0.69	1.00		
減量化目標	平成22年度	22,903 (100%)	1.17	1,771 (8%)	1.72	19,917 (87%)	1.24	1,215 (5%)	0.48	0.69		
基本予測	平成22年度	21,605 (100%)	1.10	1,745 (8%)	1.69	18,773 (87%)	1.17	1,088 (5%)	0.43	0.62		
循環計画設定	平成22年度	20,996 (100%)	1.07	1,798 (9%)	1.75	18,268 (87%)	1.14	930 (4%)	0.36	0.53		

(1)下水道汚泥（バイオマス系）

下水汚泥は、たい肥化や肥料化、セメント原料などの再生利用及びメタン発酵によるメタン生成の推進を拡大することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

なお、発生は、下水処理量の増により増加とした。

表 6-4-5 下水道汚泥（バイオマス系）

(単位:万t) [下水道汚泥]		発生		循環利用量		減量化量		最終処分量		
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	7,047 (100%)	1.00	117 (2%)	1.00	6,820 (97%)	1.00	110 (2%)	1.00	
	平成12年度	7,580 (100%)	1.08	191 (3%)	1.63	7,294 (96%)	1.07	95 (1%)	0.86	
減量化目標	平成22年度	10,438 (100%)	1.48	146 (1%)	1.25	10,155 (97%)	1.49	137 (1%)	1.25	
基本予測	平成22年度	10,386 (100%)	1.47	227 (2%)	1.94	10,045 (97%)	1.47	113 (1%)	1.03	
循環計画設定	平成22年度	9,609 (100%)	1.36	242 (3%)	2.07	9,272 (96%)	1.36	95 (1%)	0.86	
考え方	平成12年に対して平成22年を127%とする		平成12年度の処理率を維持することとする。		平成12年度の処理率を維持することとする。		平成12年度の処理率を維持することとする。		平成12年度の処理率を維持することとする。	

(2)建設汚泥（非金属鉱物系）

建設汚泥は、盛土材、堤防材、土地造成材等として再生利用を拡大することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

なお、発生は、建設・解体工事の増により増加とした。

表 6-4-6 建設汚泥（非金属鉱物系）

(単位:万t) [建設汚泥]		発生		循環利用量		減量化量		最終処分量		
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	1,437 (100%)	1.00	209 (15%)	1.00	131 (9%)	1.00	1,097 (76%)	1.00	
	平成12年度	1,363 (100%)	0.95	410 (30%)	1.96	152 (11%)	1.16	801 (59%)	0.73	
減量化目標	平成22年度	1,713 (100%)	1.19	771 (45%)	3.69	514 (30%)	3.92	428 (25%)	0.39	
基本予測	平成22年度	1,564 (100%)	1.09	704 (45%)	3.37	469 (30%)	3.58	391 (25%)	0.36	
循環計画設定	平成22年度	1,636 (100%)	1.14	736 (45%)	3.52	491 (30%)	3.75	409 (25%)	0.37	
考え方	平成12年に対して平成22年を120%とする		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。	

(3) 鉱業汚泥（非金属鉱物系）

鉱業汚泥は、土地造成材として再生利用を拡大することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-7 鉱業汚泥（非金属鉱物系）

(単位:万t) [鉱業汚泥]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	2,156 (100%)	1.00		114 (5%)	1.00		1,725 (80%)	1.00		317 (15%)	1.00	
	平成12年度	1,567 (100%)	0.73	1.00	136 (9%)	1.19	1.00	1,240 (79%)	0.72	1.00	191 (12%)	0.60	1.00
減量化目標	平成22年度	2,091 (100%)	0.97	1.33	168 (8%)	1.47	1.24	1,796 (86%)	1.04	1.45	127 (6%)	0.40	0.66
基本予測	平成22年度	1,522 (100%)	0.71	0.97	132 (9%)	1.16	0.97	1,298 (85%)	0.75	1.05	92 (6%)	0.29	0.48
循環計画設定	平成22年度	1,522 (100%)	0.71	0.97	132 (9%)	1.16	0.97	1,298 (85%)	0.75	1.05	92 (6%)	0.29	0.48
考え方		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		

(4) 上水汚泥（非金属鉱物系）

上水道汚泥は、焼結レンガやタイルとして又は土地造成材やセメント原料として再生利用を拡大することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

なお、発生は、上水処理量の増により増加とした。

表 6-4-8 上水汚泥（非金属鉱物系）

(単位:万t) [上水汚泥]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	804 (100%)	1.00		33 (4%)	1.00		700 (87%)	1.00		71 (9%)	1.00	
	平成12年度	823 (100%)	1.02	1.00	38 (5%)	1.15	1.00	727 (88%)	1.04	1.00	58 (7%)	0.82	1.00
減量化目標	平成22年度	724 (100%)	0.90	0.88	51 (7%)	1.55	1.34	630 (87%)	0.90	0.87	43 (6%)	0.61	0.74
基本予測	平成22年度	760 (100%)	0.95	0.92	54 (7%)	1.62	1.41	661 (87%)	0.94	0.91	45 (6%)	0.64	0.78
循環計画設定	平成22年度	856 (100%)	1.06	1.04	60 (7%)	1.82	1.58	745 (87%)	1.06	1.02	51 (6%)	0.72	0.88
考え方		上水の伸び率を平成12年に対して平成22年を104%とする。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		

(5) 製造業無機性汚泥（非金属鉱物系）

製造業無機性汚泥は、路盤材、土地造成材やセメント原料として再生利用を拡大することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-9 製造業無機性汚泥（非金属鉱物系）

(単位:万t) [製造業無機汚泥]		発生		循環利用量			減量化量			最終処分量		
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	3,695 (100%)	1.00	196 (5%)	1.00	2,957 (80%)	1.00	543 (15%)	1.00			
	平成12年度	3,513 (100%)	0.95	305 (9%)	1.56	2,780 (79%)	0.94	428 (12%)	1.00	0.79	1.00	
減量化目標	平成22年度	3,584 (100%)	0.97	287 (8%)	1.46	3,080 (86%)	1.04	217 (6%)	1.11	0.40	0.51	
基本予測	平成22年度	3,413 (100%)	0.92	296 (9%)	1.51	2,910 (85%)	0.98	207 (6%)	1.05	0.38	0.48	
循環計画設定	平成22年度	3,413 (100%)	0.92	296 (9%)	1.51	2,910 (85%)	0.98	207 (6%)	1.05	0.38	0.48	
考え方		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		

(6) 製造業有機性汚泥（バイオマス系）

製造業有機性汚泥は、たい肥化や肥料化などの再生利用及びメタン発酵によるメタン生成の推進を拡大することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-10 製造業有機性汚泥（バイオマス系）

(単位:万t) [製造業有機汚泥]		発生		循環利用量			減量化量			最終処分量		
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	4,160 (100%)	1.00	344 (8%)	1.00	3,449 (83%)	1.00	367 (9%)	1.00	1.00		
	平成12年度	3,954 (100%)	0.95	311 (8%)	0.90	3,451 (87%)	1.00	172 (4%)	1.00	0.47	1.00	
減量化目標	平成22年度	4,035 (100%)	0.97	323 (8%)	0.94	3,468 (86%)	1.01	244 (6%)	1.00	0.66	1.42	
基本予測	平成22年度	3,842 (100%)	0.92	322 (8%)	0.94	3,288 (86%)	0.95	232 (6%)	0.95	0.63	1.35	
循環計画設定	平成22年度	3,842 (100%)	0.92	322 (8%)	0.94	3,451 (90%)	1.00	69 (2%)	1.00	0.19	0.40	
考え方		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		平成12年度値を維持することとする。			平成12年度値を維持することとする。			発生量 - 循環利用量 - 減量化量で算出。		

(7)その他の無機性汚泥（非金属鉱物系）

その他の無機性汚泥は、路盤材、土地造成材やセメント原料として再生利用を拡大することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-11 その他の無機性汚泥（非金属鉱物系）

(単位:万t) [その他無機汚泥]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
		対H9		対H12	対H9		対H12	対H9		対H12	対H9		対H12
実績	平成9年度	318 (100%)	1.00		17 (5%)	1.00		255 (80%)	1.00		47 (15%)	1.00	
	平成12年度	118 (100%)	0.37	1.00	10 (8%)	0.59	1.00	94 (80%)	0.37	1.00	14 (12%)	0.30	1.00
減量化目標	平成22年度	318 (100%)	1.00	2.69	25 (8%)	1.47	2.50	274 (86%)	1.07	2.91	19 (6%)	0.40	1.36
基本予測	平成22年度	118 (100%)	0.37	1.00	10 (8%)	0.59	1.00	101 (86%)	0.40	1.07	7 (6%)	0.15	0.50
循環計画設定	平成22年度	118 (100%)	0.37	1.00	10 (8%)	0.59	1.00	101 (86%)	0.40	1.07	7 (6%)	0.15	0.50
考え方	廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			

3)廃油（化石系）

廃油は、燃料に再資源化する取組を拡大することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-12 廃油（化石系）

(単位:万t) [廃油]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
		対H9		対H12	対H9		対H12	対H9		対H12	対H9		対H12
実績	平成9年度	325 (100%)	1.00		100 (31%)	1.00		199 (61%)	1.00		25 (8%)	1.00	
	平成12年度	325 (100%)	1.00	1.00	84 (26%)	0.84	1.00	225 (69%)	1.13	1.00	16 (5%)	0.64	1.00
減量化目標	平成22年度	325 (100%)	1.00	1.00	99 (30%)	0.99	1.18	193 (59%)	0.97	0.86	33 (10%)	1.32	2.06
基本予測	平成22年度	325 (100%)	1.00	1.00	83 (26%)	0.83	0.99	222 (68%)	1.11	0.99	20 (6%)	0.80	1.25
循環計画設定	平成22年度	325 (100%)	1.00	1.00	99 (30%)	0.99	1.18	225 (69%)	1.13	1.00	1 (0%)	0.04	0.06
考え方	廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			平成12年度値を維持する。			発生量 - 循環利用量 - 減量化量で算出。			

4) 廃酸（非金属鉱物系）

廃酸は、工場内再生利用の推進、中和剤として再資源化の推進を図り、すべて現状を維持することとした。

表 6-4-13 廃酸（非金属鉱物系）

(単位:万t) [廃酸]		発生		循環利用量		減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12
実績	平成9年度	311 (100%)	1.00	57 (18%)	1.00	203 (65%)	1.00	52 (17%)	1.00
	平成12年度	294 (100%)	0.95 1.00	72 (24%)	1.26 1.00	206 (70%)	1.01 1.00	16 (5%)	0.31 1.00
減量化目標	平成22年度	400 (100%)	1.29 1.36	79 (20%)	1.39 1.10	244 (61%)	1.20 1.18	77 (19%)	1.48 4.81
基本予測	平成22年度	359 (100%)	1.15 1.22	71 (20%)	1.24 0.98	219 (61%)	1.08 1.06	69 (19%)	1.33 4.32
循環計画設定	平成22年度	294 (100%)	0.95 1.00	72 (24%)	1.26 1.00	206 (70%)	1.01 1.00	16 (5%)	0.31 1.00
考え方		平成12年度値を維持することとする。		平成12年度値を維持することとする。		平成12年度値を維持することとする。		平成12年度値を維持することとする。	

5) 廃アルカリ（非金属鉱物系）

廃アルカリは、工場内再生利用の推進、中和剤として再資源化の推進を図り、すべて現状を維持することとした。

表 6-4-14 廃アルカリ（非金属鉱物系）

(単位:万t) [廃アルカリ]		発生		循環利用量		減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12
実績	平成9年度	201 (100%)	1.00	20 (10%)	1.00	168 (84%)	1.00	13 (6%)	1.00
	平成12年度	156 (100%)	0.78 1.00	43 (28%)	2.15 1.00	104 (67%)	0.62 1.00	9 (6%)	0.69 1.00
減量化目標	平成22年度	248 (100%)	1.23 1.59	16 (6%)	0.80 0.37	218 (88%)	1.30 2.10	14 (6%)	1.08 1.56
基本予測	平成22年度	184 (100%)	0.92 1.18	12 (6%)	0.59 0.28	162 (88%)	0.96 1.56	10 (6%)	0.80 1.15
循環計画設定	平成22年度	156 (100%)	0.78 1.00	43 (28%)	2.15 1.00	104 (67%)	0.62 1.00	9 (6%)	0.69 1.00
考え方		平成12年度値を維持することとする。		平成12年度値を維持することとする。		平成12年度値を維持することとする。		平成12年度値を維持することとする。	

6) 廃プラスチック類（化石系）

廃プラスチック類は、マテリアルリサイクル油化や高炉還元剤等として再生利用を推進することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

廃プラスチック類の発生は、現状維持とした。

表 6-4-15 廃プラスチック類（化石系）

(単位:万t) [廃プラスチック類]		発生		循環利用量			減量化量			最終処分量		
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	757 (100%)	1.00	210 (28%)	1.00	199 (26%)	1.00	348 (46%)	1.00			
	平成12年度	579 (100%)	0.76	142 (25%)	0.68	177 (31%)	0.89	260 (45%)	0.75	1.00		
減量化目標	平成22年度	757 (100%)	1.00	256 (34%)	1.22	196 (26%)	0.98	305 (40%)	0.88	1.17		
基本予測	平成22年度	579 (100%)	0.76	196 (34%)	0.93	150 (26%)	0.75	233 (40%)	0.67	0.90		
循環計画設定	平成22年度	579 (100%)	0.76	196 (34%)	0.93	177 (31%)	0.89	206 (36%)	0.59	0.79		
考え方	廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		循環利用率が最も高い(34%)減量化目標値を用いる。			平成12年度値を維持する。			発生量 - 循環利用量 - 減量化量で算出。			

7) 紙くず（バイオマス系）

紙くずは、再生利用可能な紙類の回収・再生利用をさらに推進することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-16 紙くず（バイオマス系）

(単位:万t) [紙くず]		発生		循環利用量			減量化量			最終処分量		
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	206 (100%)	1.00	103 (50%)	1.00	86 (42%)	1.00	18 (9%)	1.00			
	平成12年度	216 (100%)	1.05	107 (50%)	1.04	90 (42%)	1.05	19 (9%)	1.06	1.00		
減量化目標	平成22年度	206 (100%)	1.00	161 (78%)	1.56	38 (18%)	0.44	7 (3%)	0.39	0.37		
基本予測	平成22年度	216 (100%)	1.05	169 (78%)	1.64	40 (18%)	0.46	7 (3%)	0.41	0.39		
循環計画設定	平成22年度	216 (100%)	1.05	169 (78%)	1.64	40 (19%)	0.47	7 (3%)	0.39	0.37		
考え方	廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		循環利用率が最も高い(78%)減量化目標値を用いる。			発生量 - 循環利用量 - 最終処分量で算出。			最終処分量が最も低い(3%)減量化目標値を用いる。			

8)木くず（バイオマス系）

木くずは、製紙原料、ボード、家畜敷料等として再生利用を推進することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-17 木くず（バイオマス系）

(単位:万t) [木くず]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	675 (100%)	1.00		168 (25%)	1.00		435 (64%)	1.00		72 (11%)	1.00	
	平成12年度	551 (100%)	0.82	1.00	206 (37%)	1.23	1.00	290 (53%)	0.67	1.00	55 (10%)	0.76	1.00
減量化目標	平成22年度	706 (100%)	1.05	1.28	572 (81%)	3.40	2.78	111 (16%)	0.26	0.38	23 (3%)	0.32	0.42
基本予測	平成22年度	572 (100%)	0.85	1.04	463 (81%)	2.76	2.25	90 (16%)	0.21	0.31	19 (3%)	0.26	0.34
循環計画設定	平成22年度	572 (100%)	0.85	1.04	464 (81%)	2.76	2.25	90 (16%)	0.21	0.31	19 (3%)	0.26	0.35
考え方		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			発生量 - 循環利用量 - 最終処分量で算出。			最終処分率が最も低い(3%)減量化目標値を用いる。		

9)繊維くず（バイオマス系）

繊維くずは、再生利用可能な繊維の回収・再使用・再生利用をさらに推進することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-18 繊維くず（バイオマス系）

(単位:万t) [繊維くず]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	7 (100%)	1.00		1 (14%)	1.00		4 (57%)	1.00		2 (29%)	1.00	
	平成12年度	8 (100%)	1.14	1.00	1 (13%)	1.00	1.00	5 (63%)	1.25	1.00	2 (25%)	1.00	1.00
減量化目標	平成22年度	7 (100%)	1.00	0.88	5 (71%)	5.00	5.00	1 (14%)	0.25	0.20	1 (14%)	0.50	0.50
基本予測	平成22年度	8 (8%)	1.14	1.00	6 (71%)	5.71	5.71	1 (14%)	0.29	0.23	1 (14%)	0.57	0.57
循環計画設定	平成22年度	8 (100%)	1.14	1.00	6 (71%)	6.00	6.00	1 (14%)	0.25	0.20	1 (14%)	0.50	0.50
考え方		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			循環利用率が最も高い(71%)減量化目標値を用いる。			発生量 - 循環利用量 - 最終処分量で算出。			最終処分率が最も低い(14%)減量化目標値を用いる。		

10) 動植物性残さ（バイオマス系）

動植物性残さは、たい肥化や肥料化などの再生利用及びメタン発酵によるメタン生成の推進することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-19 動植物性残さ（バイオマス系）

(単位:万t) [動植物性残さ]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	313 (100%)	1.00		165 (53%)	1.00		100 (32%)	1.00		48 (15%)	1.00	
	平成12年度	405 (100%)	1.29	1.00	126 (31%)	0.76	1.00	251 (62%)	2.51	1.00	28 (7%)	0.58	1.00
減量化目標	平成22年度	313 (100%)	1.00	0.77	249 (80%)	1.51	1.98	40 (13%)	0.40	0.16	24 (8%)	0.50	0.86
基本予測	平成22年度	405 (100%)	1.29	1.00	322 (80%)	1.95	2.56	52 (13%)	0.52	0.21	31 (8%)	0.65	1.11
循環計画設定	平成22年度	405 (100%)	1.29	1.00	322 (80%)	1.95	2.56	55 (13%)	0.55	0.22	28 (8%)	0.58	1.00
考え方		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			循環利用率が最も高い(80%)減量化目標値を用いる。			減量化目標値の減量化率を用いる。			減量化目標値の最終処分量を用いる。		

11) ゴムくず（バイオマス系）

ゴムくずは、再生利用可能なゴムくずの回収・再生利用をさらに推進することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-20 ゴムくず（バイオマス系）

(単位:万t) [ゴムくず]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	7 (100%)	1.00		1 (14%)	1.00		1 (14%)	1.00		5 (71%)	1.00	
	平成12年度	4 (100%)	0.57	1.00	1 (25%)	1.00	1.00	0 (0%)	0.00		3 (75%)	0.60	1.00
減量化目標	平成22年度	7 (100%)	1.00	1.75	2 (29%)	2.00	2.00	2 (29%)	2.00		3 (43%)	0.60	1.00
基本予測	平成22年度	4 (100%)	0.57	1.00	1 (25%)	1.00	1.00	1 (25%)	1.00		2 (50%)	0.40	0.67
循環計画設定	平成22年度	4 (100%)	0.57	1.00	1 (25%)	1.00	1.00	1 (25%)	1.00		2 (50%)	0.40	0.67
考え方		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		

12) 金属くず（金属系）

金属くずは、製錬地金等として再生利用を推進することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-21 金属くず（金属系）

(単位:万t) [金属くず]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	635 (100%)	1.00		463 (73%)	1.00		0 (0%)			172 (27%)	1.00	
	平成12年度	810 (100%)	1.28	1.00	680 (84%)	1.47	1.00	0 (0%)			130 (16%)	0.76	1.00
減量化目標	平成22年度	635 (100%)	1.00	0.78	560 (88%)	1.21	0.82	0 (0%)			75 (12%)	0.44	0.58
基本予測	平成22年度	810 (100%)	1.28	1.00	736 (91%)	1.59	1.08	0 (0%)			74 (9%)	0.43	0.57
循環計画設定	平成22年度	810 (100%)	1.28	1.00	749 (92%)	1.62	1.10	0 (0%)			61 (8%)	0.35	0.47
考え方	廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。						廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			

13) ガラスくず及び陶磁器くず（非金属鉱物系）

ガラスくず及び陶磁器くずは、カレット、路盤材又はセメント原料として再生利用を推進することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-22 ガラスくず及び陶磁器くず（非金属鉱物系）

(単位:万t) [ガラス陶磁器くず]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	570 (100%)	1.00		171 (30%)	1.00		0 (0%)			400 (70%)	1.00	
	平成12年度	480 (100%)	0.84	1.00	210 (44%)	1.23	1.00	1 (0%)			269 (56%)	0.67	1.00
減量化目標	平成22年度	570 (100%)	1.00	1.19	239 (42%)	1.40	1.14	0 (0%)			331 (58%)	0.83	1.23
基本予測	平成22年度	480 (100%)	0.84	1.00	201 (42%)	1.18	0.96	0 (0%)			279 (58%)	0.70	1.04
循環計画設定	平成22年度	480 (100%)	0.84	1.00	378 (79%)	2.21	1.80	0 (0%)			102 (21%)	0.26	0.38
考え方	廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			建設業からの陶磁器くずの循環利用率を平成22年までに95%に引き上げる。 その他の陶磁器の循環利用率を平成22年度までに44%に引き上げる。						発生量 - 循環利用量 - 減量化量で算出。			

14) 鉱さい（非金属鉱物系）

鉱さいは、セメント原料、骨材、サンドブラスト、路盤材等として再生利用の推進することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-23 鉱さい（非金属鉱物系）

(単位:万t) [鉱さい]		発生		循環利用量			減量化量		最終処分量		
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12		
実績	平成9年度	1,789 (100%)	1.00	1,158 (65%)	1.00	0 (0%)	0	631 (35%)	1.00		
	平成12年度	1,645 (100%)	0.92	1,298 (79%)	1.12	0 (0%)	0	347 (21%)	0.55	1.00	
減量化目標	平成22年度	1,789 (100%)	1.00	1,628 (91%)	1.41	0 (0%)	0	161 (9%)	0.26	0.46	
基本予測	平成22年度	1,645 (100%)	0.92	1,497 (91%)	1.29	0 (0%)	0	148 (9%)	0.23	0.43	
循環計画設定	平成22年度	1,645 (100%)	0.92	1,497 (91%)	1.29	0 (0%)	0	148 (9%)	0.23	0.43	
考え方	廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。					廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			

15) がれき類（非金属鉱物系）

がれき類は、路盤材、再生アスファルト、セメント原料等として再生利用を推進することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-24 がれき類（非金属鉱物系）

(単位:万t) [がれき類]		発生		循環利用量			減量化量		最終処分量		
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12		
実績	平成9年度	5,699 (100%)	1.00	3,824 (67%)	1.00	0 (0%)	0	1,875 (33%)	1.00		
	平成12年度	5,883 (100%)	1.03	4,895 (83%)	1.28	0 (0%)	0	988 (17%)	0.53	1.00	
減量化目標	平成22年度	7,153 (100%)	1.26	6,795 (95%)	1.78	0 (0%)	0	358 (5%)	0.19	0.36	
基本予測	平成22年度	7,038 (100%)	1.23	6,685 (95%)	1.75	0 (0%)	0	352 (5%)	0.19	0.36	
循環計画設定	平成22年度	7,036 (100%)	1.23	6,684 (95%)	1.75	0 (0%)	0	352 (5%)	0.19	0.36	
考え方	廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			発生量 - 循環利用量 - 最終処分量で算出。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			

16)ばいじん（非金属鉱物系）

ばいじんは、工場内再生利用や希少金属回収等の推進及び希少金属回収後に路盤材やセメント原料として再生利用を推進することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-25 ばいじん（非金属鉱物系）

(単位:万t) [[ばいじん]		発生		循環利用量		減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12
実績	平成9年度	750 (100%)	1.00	397 (53%)	1.00	7 (1%)	1.00	345 (46%)	1.00
	平成12年度	1,077 (100%)	1.44	611 (57%)	1.54	84 (8%)	12.00	382 (35%)	1.11
減量化目標	平成22年度	910 (100%)	1.21	443 (49%)	1.12	223 (25%)	31.86	244 (27%)	0.71
予測	平成22年度	1,254 (100%)	1.67	610 (49%)	1.54	307 (25%)	43.89	336 (27%)	0.97
循環計画設定	平成22年度	1,284 (100%)	1.71	970 (76%)	2.44	231 (18%)	33.00	83 (6%)	0.24
考え方	石炭火力発電所のばいじんの排出量を平成22年度19%増とする。		石炭火力発電所からのばいじんの循環利用率を平成22年までに83.3%に引き上げる。 その他のばいじんの循環利用率を平成22年度までに68.1%に引き上げる。		発生量 - 循環利用量 - 最終処分量で算出。		石炭火力発電所からのばいじんの最終処分率を平成22年までに2.9%に引き下げる。 その他のばいじんの最終処分率を平成22年度までに10.9%に引き下げる。		

17)家畜ふん尿（バイオマス系）

家畜ふん尿の排出量の15%（堆肥舎等で堆肥化）を循環利用量とし、循環計画設定を行った。

家畜ふん尿は、たい肥化や肥料化などの再生利用及びメタン発酵によるメタン生成の推進することとし、循環利用量の増加、最終処分量の削減とした。

表 6-4-26 家畜ふん尿＜自然還元量を除く＞

(単位:万t) [家畜ふん尿]		発生		循環利用量		減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12
実績	平成9年度	1,805 (100%)	1.00	1,406 (78%)	1.00	371 (21%)	1.00	28 (2%)	1.00
	平成12年度	1,830 (100%)	1.01	1,357 (74%)	0.97	356 (19%)	0.96	117 (6%)	4.18
減量化目標	平成22年度	2,353 (100%)	1.30	1,874 (80%)	1.33	376 (16%)	1.01	103 (4%)	3.68
基本予測	平成22年度	2,262 (100%)	1.25	1,810 (80%)	1.29	356 (16%)	0.96	96 (4%)	3.43
循環計画設定	平成22年度	2,262 (100%)	1.25	1,810 (80%)	1.29	356 (16%)	0.96	96 (4%)	3.43
考え方	廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		

なお、自然還元量を含めた家畜ふん尿の循環計画設定結果は、表 6-4-27 のとおりである。

表 6-4-27 家畜ふん尿<自然還元量を除く全体>

(単位:万t) [家畜ふん尿]		発生		循環利用量		減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12
実績	平成9年度	9,371 (100%)	1.00	8,972 (96%)	1.00	371 (4%)	1.00	28 (0%)	1.00
	平成12年度	9,049 (100%)	0.97 1.00	8,576 (95%)	0.96 1.00	356 (4%)	0.96 1.00	117 (1%)	4.18 1.00
減量化目標	平成22年度	9,371 (100%)	1.00 1.04	8,892 (95%)	0.99 1.04	376 (4%)	1.01 1.06	103 (1%)	3.68 0.88
基本予測	平成22年度	9,049 (100%)	0.97 1.00	8,586 (95%)	0.96 1.00	363 (4%)	0.98 1.02	99 (1%)	3.55 0.85
循環計画設定	平成22年度	9,049 (100%)	0.97 1.00	8,597 (95%)	0.96 1.00	356 (4%)	0.96 1.00	96 (1%)	3.43 0.82
考え方		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。	

17) 家畜の死体

家畜の死体は、現状を維持することとした。

表 6-4-28 家畜の死体

(単位:万t) [家畜の死体]		発生		循環利用量		減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12
実績	平成9年度	11 (100%)	1.00	5 (45%)	1.00	0 (0%)		6 (55%)	1.00
	平成12年度	16 (100%)	1.45 1.00	13 (81%)	2.60 1.00	1 (6%)	1.00	2 (13%)	0.33 1.00
減量化目標	平成22年度	11 (100%)	1.00 0.69	5 (45%)	1.00 0.38	1 (9%)	1.00	5 (45%)	0.83 2.50
基本予測	平成22年度	16 (100%)	1.45 1.00	7 (45%)	1.45 0.56	1 (9%)	1.45	7 (45%)	1.21 3.64
循環計画設定	平成22年度	16 (100%)	1.45 1.00	13 (81%)	2.60 1.00	1 (6%)	1.00	2 (13%)	0.33 1.00
考え方		平成12年度値を維持することとする。		平成12年度値を維持することとする。		平成12年度値を維持することとする。		平成12年度値を維持することとする。	

6.4.3 廃棄物の「等」に関する基本的な設定事項及び条件等について

6.4.3.1 産業系の「等」の将来推計について

産業系の「等」については、6.4.2 で記した産業廃棄物の同様な考え方をを用いて、同一種類ごとに循環計画設定を行った。

その結果は、表 6-4-29～表 6-4-36 のとおりである。

表 6-4-29 燃え殻

(単位:万t) [燃え殻]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	142 (100%)	1.00		142 (100%)	1.00		-			-		
	平成12年度	82 (100%)	0.58	1.00	82 (100%)	0.58	1.00	-			-		
減量化目標	平成22年度	142 (100%)	1.00	1.73	142 (100%)	1.00	1.73	-			-		
基本予測	平成22年度	82 (100%)	0.58	1.00	82 (100%)	0.58	1.00	-			-		
循環計画設定	平成22年度	82 (100%)	0.58	1.00	82 (100%)	0.58	1.00	-			-		
考え方	産業廃棄物の燃え殻と同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			産業廃棄物の燃え殻と同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。									

表 6-4-30 廃油

(単位:万t) [廃油]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	135 (100%)	1.00		135 (100%)	1.00		-			-		
	平成12年度	57 (100%)	0.42	1.00	57 (100%)	0.42	1.00	-			-		
減量化目標	平成22年度	135 (100%)	1.00	2.37	135 (100%)	1.00	2.37	-			-		
基本予測	平成22年度	57 (100%)	0.42	1.00	57 (100%)	0.42	1.00	-			-		
循環計画設定	平成22年度	57 (100%)	0.42	1.00	57 (100%)	0.42	1.00	-			-		
考え方	産業廃棄物の廃油と同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			産業廃棄物の廃油と同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。									

表 6-4-31 紙くず

(単位:万t) [紙くず]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	45 (100%)	1.00		45 (100%)	1.00		-			-		
	平成12年度	372 (100%)	8.27	1.00	372 (100%)	8.27	1.00	-			-		
減量化目標	平成22年度	45 (100%)	1.00	0.12	45 (100%)	1.00	0.12	-			-		
基本予測	平成22年度	372 (100%)	8.27	1.00	372 (100%)	8.27	1.00	-			-		
循環計画設定	平成22年度	372 (100%)	8.27	1.00	372 (100%)	8.27	1.00	-			-		
考え方		産業廃棄物の紙くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			産業廃棄物の紙くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。								

表 6-4-32 繊維くず

(単位:万t) [繊維くず]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	11 (100%)	1.00		11 (100%)	1.00		-			-		
	平成12年度	6 (100%)	0.55	1.00	6 (100%)	0.55	1.00	-			-		
減量化目標	平成22年度	11 (100%)	1.00	1.83	11 (100%)	1.00	1.83	-			-		
基本予測	平成22年度	6 (100%)	0.55	1.00	6 (100%)	0.55	1.00	-			-		
循環計画設定	平成22年度	6 (100%)	0.55	1.00	6 (100%)	0.55	1.00	-			-		
考え方		産業廃棄物の繊維くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			産業廃棄物の繊維くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。								

表 6-4-33 金属くず

(単位:万t) [金属くず]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	831 (100%)	1.00		831 (100%)	1.00		-			-		
	平成12年度	427 (100%)	0.51	1.00	427 (100%)	0.51	1.00	-			-		
減量化目標	平成22年度	831 (100%)	1.00	1.95	831 (100%)	1.00	1.95	-			-		
基本予測	平成22年度	427 (100%)	0.51	1.00	427 (100%)	0.51	1.00	-			-		
循環計画設定	平成22年度	427 (100%)	0.51	1.00	427 (100%)	0.51	1.00	-			-		
考え方		産業廃棄物の金属くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			産業廃棄物の金属くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。								

表 6-4-34 ガラスくず及び陶磁器くず

(単位:万t) [ガラス陶磁器くず]		発生		循環利用量			減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	128 (100%)	1.00	128 (100%)	1.00	-	-	-	-	
	平成12年度	157 (100%)	1.23 1.00	157 (100%)	1.23 1.00	-	-	-	-	
減量化目標	平成22年度	128 (100%)	1.00 0.82	128 (100%)	1.00 0.82	-	-	-	-	
基本予測	平成22年度	157 (100%)	1.23 1.00	157 (100%)	1.23 1.00	-	-	-	-	
循環計画設定	平成22年度	157 (100%)	1.23 1.00	157 (100%)	1.23 1.00	-	-	-	-	
考え方	産業廃棄物のガラスくず及び陶磁器くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		産業廃棄物のガラスくず及び陶磁器くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。							

表 6-4-35 鋳さい

(単位:万t) [鋳さい]		発生		循環利用量			減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	2,908 (100%)	1.00	2,908 (100%)	1.00	-	-	-	-	
	平成12年度	3,229 (100%)	1.11 1.00	3,229 (100%)	1.11 1.00	-	-	-	-	
減量化目標	平成22年度	2,908 (100%)	1.00 0.90	2,908 (100%)	1.00 0.90	-	-	-	-	
基本予測	平成22年度	3,229 (100%)	1.11 1.00	3,229 (100%)	1.11 1.00	-	-	-	-	
循環計画設定	平成22年度	3,229 (100%)	1.11 1.00	3,229 (100%)	1.11 1.00	-	-	-	-	
考え方	産業廃棄物の鋳さいと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		産業廃棄物の鋳さいと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。							

表 6-4-36 ばいじん

(単位:万t) [ばいじん]		発生		循環利用量			減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	665 (100%)	1.00	665 (100%)	1.00	-	-	-	-	
	平成12年度	386 (100%)	0.58 1.00	386 (100%)	0.58 1.00	-	-	-	-	
減量化目標	平成22年度	807 (100%)	1.21 2.09	807 (100%)	1.21 2.09	-	-	-	-	
基本予測	平成22年度	449 (100%)	0.68 1.16	449 (100%)	0.68 1.16	-	-	-	-	
循環計画設定	平成22年度	460 (100%)	0.69 1.19	460 (100%)	0.69 1.19	-	-	-	-	
考え方	産業廃棄物のばいじんと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		産業廃棄物のばいじんと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。							

6.4.3.2 事業系の「等」の将来推計について

事業系の「等」については、6.4.2 で記した産業廃棄物の同様な考え方をを用いて、同一種類ごとに循環計画設定を行った。

その結果は、表 6-4-37～表 6-4-43 のとおりである。

表 6-4-37 古紙

(単位:万t) [古紙]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	1,177 (100%)	1.00		1,177 (100%)	1.00		-			-		
	平成12年度	1,375 (100%)	1.17	1.00	1,375 (100%)	1.17	1.00	-			-		
減量化目標	平成22年度	1,177 (100%)	1.00	0.86	1,177 (100%)	1.00	0.86	-			-		
基本予測	平成22年度	1,375 (100%)	1.17	1.00	1,375 (100%)	1.17	1.00	-			-		
循環計画設定	平成22年度	1,375 (100%)	1.17	1.00	1,375 (100%)	1.17	1.00	-			-		
考え方		産業廃棄物の紙くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			産業廃棄物の紙くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。								

表 6-4-38 飲料用紙容器

(単位:万t) [飲料用紙容器]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	50 (100%)	1.00		50 (100%)	1.00		-			-		
	平成12年度	47 (100%)	0.94	1.00	47 (100%)	0.94	1.00	-			-		
減量化目標	平成22年度	50 (100%)	1.00	1.06	50 (100%)	1.00	1.06	-			-		
基本予測	平成22年度	47 (100%)	0.94	1.00	47 (100%)	0.94	1.00	-			-		
循環計画設定	平成22年度	47 (100%)	0.94	1.00	47 (100%)	0.94	1.00	-			-		
考え方		産業廃棄物の紙くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			産業廃棄物の紙くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。								

表 6-4-39 アルミ缶

(単位:万t) [アルミ缶]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量		
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12
実績	平成9年度	2 (100%)	1.00		2 (100%)	1.00		-			-		
	平成12年度	3 (100%)	1.50	1.00	3 (100%)	1.50	1.00	-			-		
減量化目標	平成22年度	2 (100%)	1.00	0.67	2 (100%)	1.00	0.67	-			-		
基本予測	平成22年度	3 (100%)	1.50	1.00	3 (100%)	1.50	1.00	-			-		
循環計画設定	平成22年度	3 (100%)	1.50	1.00	3 (100%)	1.50	1.00	-			-		
考え方		産業廃棄物の金属くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			産業廃棄物の金属くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。								

表 6-4-40 スチール缶

(単位:万t) [スチール缶]		発生		循環利用量			減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	50 (100%)	1.00	50 (100%)	1.00	-	-	-	-	
	平成12年度	47 (100%)	0.94 1.00	47 (100%)	0.94 1.00	-	-	-	-	
減量化目標	平成22年度	50 (100%)	1.00 1.06	50 (100%)	1.00 1.06	-	-	-	-	
基本予測	平成22年度	47 (100%)	0.94 1.00	47 (100%)	0.94 1.00	-	-	-	-	
循環計画設定	平成22年度	47 (100%)	0.94 1.00	47 (100%)	0.94 1.00	-	-	-	-	
考え方	産業廃棄物の金属くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		産業廃棄物の金属くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。							

表 6-4-41 金属スクラップ

(単位:万t) [金属スクラップ]		発生		循環利用量			減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	2,686 (100%)	1.00	2,686 (100%)	1.00	-	-	-	-	
	平成12年度	2,857 (100%)	1.06 1.00	2,857 (100%)	1.06 1.00	-	-	-	-	
減量化目標	平成22年度	2,686 (100%)	1.00 0.94	2,686 (100%)	1.00 0.94	-	-	-	-	
基本予測	平成22年度	2,857 (100%)	1.06 1.00	2,857 (100%)	1.06 1.00	-	-	-	-	
循環計画設定	平成22年度	2,857 (100%)	1.06 1.00	2,857 (100%)	1.06 1.00	-	-	-	-	
考え方	産業廃棄物の金属くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		産業廃棄物の金属くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。							

表 6-4-42 廃自動車

(単位:万t) [廃自動車]		発生		循環利用量			減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	
実績	平成9年度	378 (100%)	1.00	378 (100%)	1.00	-	-	-	-	
	平成12年度	334 (100%)	0.88 1.00	334 (100%)	0.88 1.00	-	-	-	-	
減量化目標	平成22年度	378 (100%)	1.00 1.13	378 (100%)	1.00 1.13	-	-	-	-	
基本予測	平成22年度	334 (100%)	0.88 1.00	334 (100%)	0.88 1.00	-	-	-	-	
循環計画設定	平成22年度	334 (100%)	0.88 1.00	334 (100%)	0.88 1.00	-	-	-	-	
考え方	産業廃棄物の金属くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。		産業廃棄物の金属くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。							

表 6-4-43 ガラスびん

(単位:万t) [ガラスびん]		発生			循環利用量			減量化量			最終処分量			
			対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12		対H9	対H12	
実績	平成9年度	410 (100%)	1.00		410 (100%)	1.00		-			-			
	平成12年度	300 (100%)	0.73	1.00	300 (100%)	0.73	1.00	-			-			
減量化目標	平成22年度	410 (100%)	1.00	1.37	410 (100%)	1.00	1.37	-			-			
基本予測	平成22年度	300 (100%)	0.73	1.00	300 (100%)	0.73	1.00	-			-			
循環計画設定	平成22年度	300 (100%)	0.73	1.00	300 (100%)	0.73	1.00	-			-			
考え方			産業廃棄物の金属くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。			産業廃棄物の金属くずと同じ、廃棄物の減量化の目標量に準じた予測値を用いる。								

6.4.3.3 農業系の「等」の将来推計について

農業系のもみ殻、稲わら、麦わらの循環計画設定は、現状維持とした。各種類ごとの結果は、表 6-4-44～表 6-4-46 のとおりである。

表 6-4-44 もみ殻

(単位:万t) [もみ殻]		発生		循環利用量		減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12
実績	平成9年度	229 (100%)	1.00	187 (82%)	1.00	42 (18%)	1.00	-	
	平成12年度	208 (100%)	0.91 1.00	182 (88%)	0.97 1.00	26 (13%)	0.62 1.00	-	
減量化目標	平成22年度	229 (100%)	1.00 1.10	187 (82%)	1.00 1.03	42 (18%)	1.00 1.62	-	
基本予測	平成22年度	208 (100%)	0.91 1.00	182 (88%)	0.97 1.00	26 (13%)	0.62 1.00	-	
循環計画設定	平成22年度	208 (100%)	0.91 1.00	170 (82%)	0.91 0.93	38 (18%)	0.91 1.47	-	

表 6-4-45 稲わら

(単位:万t) [稲わら]		発生		循環利用量		減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12
実績	平成9年度	1,048 (100%)	1.00	1,004 (96%)	1.00	44 (4%)	1.00	-	
	平成12年度	954 (100%)	0.91 1.00	915 (96%)	0.91 1.00	39 (4%)	0.89 1.00	-	
減量化目標	平成22年度	1,048 (100%)	1.00 1.10	1,004 (96%)	1.00 1.10	44 (4%)	1.00 1.13	-	
基本予測	平成22年度	954 (100%)	0.91 1.00	915 (96%)	0.91 1.00	39 (4%)	0.89 1.00	-	
循環計画設定	平成22年度	954 (100%)	0.91 1.00	914 (96%)	0.91 1.00	40 (4%)	0.91 1.03	-	

表 6-4-46 麦わら

(単位:万t) [麦わら]		発生		循環利用量		減量化量		最終処分量	
		対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12	対H9	対H12
実績	平成9年度	77 (100%)	1.00	57 (74%)	1.00	20 (26%)	1.00	-	
	平成12年度	90 (100%)	1.17 1.00	68 (76%)	1.19 1.00	22 (24%)	1.10 1.00	-	
減量化目標	平成22年度	77 (100%)	1.00 0.86	57 (74%)	1.00 0.84	20 (26%)	1.00 0.91	-	
基本予測	平成22年度	90 (100%)	1.17 1.00	68 (76%)	1.19 1.00	22 (24%)	1.10 1.00	-	
循環計画設定	平成22年度	90 (100%)	1.17 1.00	67 (74%)	1.17 0.98	23 (26%)	1.17 1.06	-	

6.4.4 廃棄物等の平成 22 年の循環利用量等について

1) バイオマス系循環資源について

バイオマス系循環資源については、下水道などの汚水処理施設の整備により、処理する有機性汚泥が増えるという増加要因と家庭などからの紙ごみや生ごみなどの発生抑制を進めるといった減少要因があり、廃棄物等発生量全体でみた比率は 39%（平成 12 年度）から 40%（平成 22 年度）程度と微増するものと考えられる。

循環利用（リユース・リサイクル）については、家庭・オフィスなどからの紙ごみや工場から出る紙くずを再生紙などとして利用すること、生ごみや動物のふん尿などを肥料・飼料などとして利用すること、木くずを再生木材（パーティクルボード）などとして利用することなどにより循環利用する比率が 20%（平成 12 年度）から 24%（平成 22 年度）程度に増加するものと考えられる。

2) 非金属鉱物系循環資源について

非金属鉱物系循環資源については、建設・解体工事に伴うがれき類の発生や石炭火力発電設備の整備によるばいじんの発生などの増加要因があり、廃棄物等発生量全体でみた比率は 36%（平成 12 年度）から 37%（平成 22 年度）程度に微増するものと考えられる。

循環利用については、家庭から出るガラスびん等のリサイクル、無機性の汚泥やがれき類を建設資材として活用することなどにより循環利用する比率が 57%（平成 12 年度）から 66%（平成 22 年度）程度に増加するものと考えられる。

3) 金属系循環資源について

金属系循環資源については、発生量はほぼ横ばいで推移し、廃棄物等発生量全体でみた比率は 7.9%（平成 12 年度）から 7.5%（平成 22 年度）程度に減少するものと考えられる。

循環利用については、家電などからの金属回収が増加することによって循環利用する比率が 96%（平成 12 年度）から 98%（平成 22 年度）程度に増加するものと考えられる。

4) 化石燃料系循環資源について

化石燃料系循環資源については、発生量はほぼ横ばいで推移し、廃棄物等発生量全体でみた比率は 2.8%（平成 12 年度）から 2.6%（平成 22 年度）程度に減少するものと考えられる。

循環利用については、容器包装廃棄物の循環利用が促進することなどによって循環利用する比率が 19%（平成 12 年度）から 30%（平成 22 年度）程度に増加するものと考えられる。

5)全体について

自然還元量については、一部が施設で循環利用されるようになると考えられるため 85 百万トン（平成 12 年度）から 80 百万トン（平成 22 年度）程度になることが予測される。循環利用量については、廃棄物等発生量のうち循環利用されるものの比率が 36%（平成 12 年度）から 42%（平成 22 年度）程度に増加するものと考えられる。

焼却・脱水などによる減量化については、40%（平成 12 年度）から 41%（平成 22 年度）程度になるものと考えられる。

最終処分量は、56 百万トン（平成 12 年度）から 28 百万トン（平成 22 年度）程度に減少すると考えられる。

表6-3-47 平成22年度の循環利用量等

品名	資源物の内訳 (区分別)				自然還元量		循環利用量					減量化量				最終処分量						
	平成22年度 数量	平成12年度 数量	H22/H12	平成22年度 割合	平成12年度 数量	平成22年度 数量	平成22年度 数量	平成12年度 循環率	平成12年度 数量	平成22年度 循環率	平成22年度 数量	平成22年度 数量	平成12年度 減量化率	平成12年度 数量	平成22年度 減量化率	平成22年度 数量	平成12年度 処分率	平成22年度 数量	平成12年度 数量	平成22年度 処分率	平成22年度 数量	
バイオマス系資源	紙	1,230	1,904	90%	1,723		85	24%	448	44.2%	762	884	65%	1,235	50%	885	11.6%	251	221	5.5%	95	
	開弁	1,742	1,804	87%	1,570		1	1%	13	9.9%	156	1,390	86%	1,545	81%	1,273	13.6%	351	246	8.9%	140	
	繊維	152	141	93%	132		4	14%	20	14.8%	20	116	71%	101	77%	101	14.2%	32	20	8.5%	11	
	木竹草類等	430	287	100%	289		3	1%	3	9.9%	29	319	80%	231	81%	234	18.5%	108	53	9.0%	26	
	し尿 浄化槽汚泥	3,471	2,997	100%	2,997		209	2%	70	2.4%	71	2,925	92%	2,755	97%	2,903	5.7%	336	172	0.8%	23	
	等				109						109											
	木竹草類等				7						7											
	古紙	867	1,375	100%	1,375		867	100%	1,375	100%	1,375											
	下水汚泥	4,101	7,580	127%	9,609		84	2.5%	191	2.5%	242	3,670	96%	7,294	96%	9,272	1.3%	148	95	1.3%	125	
	製造業 有機性汚泥	4,266	3,954	97%	3,842		326	8%	331	8.4%	322	3,146	87%	3,451	90%	3,451	4.4%	793	172	1.8%	69	
土壌系資源	庭くず	523	588	100%	588		465	81%	479	92%	541	42	15%	90	6.8%	40	3.2%	16	19	1.2%	7	
	木くず	657	551	104%	572		311	37%	206	81%	464	250	53%	290	15.7%	90	10.0%	96	55	3.3%	19	
	繊維くず	30	14	100%	14		26	50%	7	84%	12	3	36%	5	8%	1	14%	1	2	8.2%	1	
	動植物性残渣	354	405	100%	405		261	31%	126	80%	322	73	62%	251	14%	55	7%	21	28	6.9%	28	
	ゴムくず	9	4	100%	4		0	25%	1	29%	1	0	0%	0	29%	1	76%	9	3	43%	2	
	家畜ふん尿 (還元)	8,239	7,219	94%	6,787	7,219	6,787															
	家畜ふん尿 (資源)	1,998	1,830	124%	2,282		1,536	74%	1,357	80%	1,810	404	19%	356	16%	356	6.4%	59	117	4%	96	
	動物の死体	3	16	100%	16		2	81%	13	81%	13	0	6%	1	6%	1	13%	1	2	13%	2	
	等	1,095	954	100%	954	915	914					39	4.1%	39	4.2%	40						
	等	130	90	100%	90	68	67					33	25.6%	23	26%	23						
等	237	208	100%	208	182	170					52	12.5%	26	18%	38							
ガラス系資源	ガラス	337	283	94%	247		64	37%	98	49.7%	123	10	1%	1	1%	1	62.1%	263	163	49.7%	123	
	陶磁器類等	307	147	100%	148		0	3%	4	4.4%	6	9	0%	1	0%	1	97.1%	298	143	95.3%	141	
	ガラスびん	352	300	100%	300		352	100%	300	100%	300											
	等				17						17											
	等				7						7											
	等	486	271	100%	271		324	54%	145	83%	225	33	15%	41	10%	28	31%	129	85	7%	18	
	陶磁汚泥	1,180	1,363	120%	1,636		83	30%	410	45%	736	147	11%	152	30%	491	59%	930	801	25%	409	
	上水道汚泥	700	823	104%	856		21	5%	38	7.0%	60	603	88%	727	87%	745	7.0%	76	58	5.9%	51	
	紙屑汚泥	3,022	1,567	97%	1,522		231	9%	136	8.7%	132	2,229	79%	1,240	85%	1,298	12.2%	582	191	6.1%	92	
	製造業 無機汚泥	3,789	3,513	97%	3,413		290	9%	305	8.7%	296	2,795	79%	2,780	85%	2,910	12.2%	705	428	6.1%	207	
その他汚泥	228	118	100%	118		17	8%	10	8.5%	10	168	80%	94	86%	101	11.9%	42	14	6.0%	7		
陶磁	267	294	100%	294		78	24%	72	24.5%	72	82	70%	206	70%	206	5.4%	107	16	5.4%	16		
陶アルカリ	155	156	100%	156		16	28%	43	27.6%	43	108	67%	104	67%	104	5.8%	31	9	5.8%	9		
ガラス コンクリート 陶磁器	762	637	100%	637		368	58%	367	84.0%	535	0	0%	1	0%	0	42.2%	394	269	16.0%	102		
庭ざい	5,000	4,874	100%	4,874		3,967	93%	4,527	97.0%	4,726	0	0%	0	0%	0	7.1%	1,033	347	3.0%	148		
がれき類	5,480	5,883	120%	7,036		2,219	83%	4,895	95.0%	6,684	0	0%	0	0%	0	16.8%	3,281	988	5.0%	352		
ばいじん	1,111	1,463	119%	1,743		751	68%	997	82.0%	1,429	240	6%	84	13%	231	26.1%	120	382	4.7%	83		
金属系資源	金属	318	247	100%	248		98	68%	167	80.5%	199	6	0%	1	0%	1	31.8%	214	78	19.1%	47	
	等	1	3	100%	3		1	100%	3	100%	3											
	等	30	47	100%	47		30	100%	47	100%	47											
	自動車	375	334	100%	334		375	100%	334	100%	334											
	等	1,621	1,237	100%	1,237		1,547	89%	1,107	95.1%	1,176	0	0%	0	0%	0	10.5%	75	130	4.9%	61	
	等	2,569	2,857	100%	2,857		2,569	100%	2,857	100%	2,857											
	等	0	63	86%	54		0	21%	13	78.5%	42	0	66%	41	19%	10	13.2%	0	8	2.1%	1	
	等	627	657	97%	639		3	3%	18	14.9%	96	480	79%	520	77%	490	18.1%	164	119	8.4%	54	
	等				6						6											
	等	461	382	100%	382		280	37%	141	40.8%	156	151	59%	225	59%	225	4.2%	20	16	0.3%	1	
等	434	579	100%	579		86	25%	142	33.8%	196	84	31%	177	31%	177	44.9%	264	260	35.6%	206		
合計	59,127	59,999	105%	63,212	8,384	7,937	17,969	36%	21,818	42.3%	26,768	20,672	40.1%	24,088	40.6%	25,764	9.5%	10,909	5,710	4.4%	2,772	